

平成26年度版

連携型中高一貫教育に係るアンケート調査

結果と考察

平成27年3月

神石高原町教育委員会

目 次

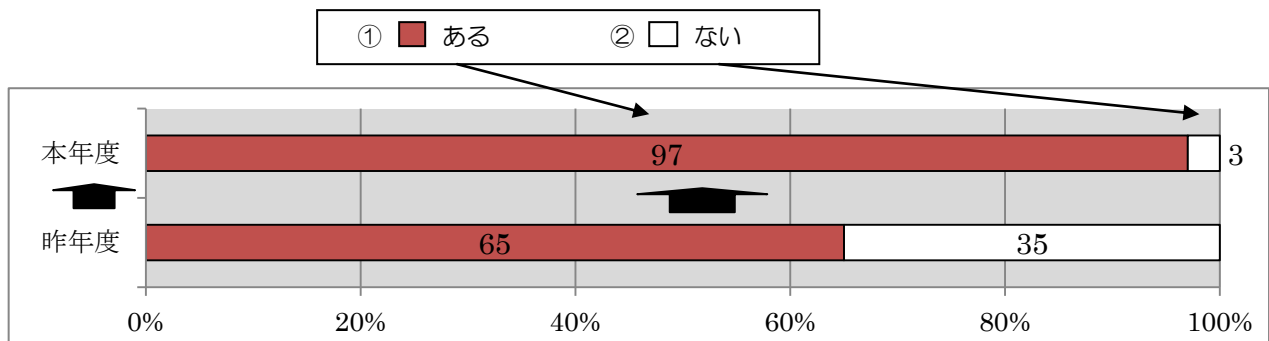
	ページ
I. 中 学 生 編	1 ~ 9
II. 高 校 生 編	10 ~ 13
III. 中・高教職員編	14 ~ 17
IV. 小・中学校保護者編	18 ~ 22
V. 地 域 編	23 ~ 24

回 答 者 数

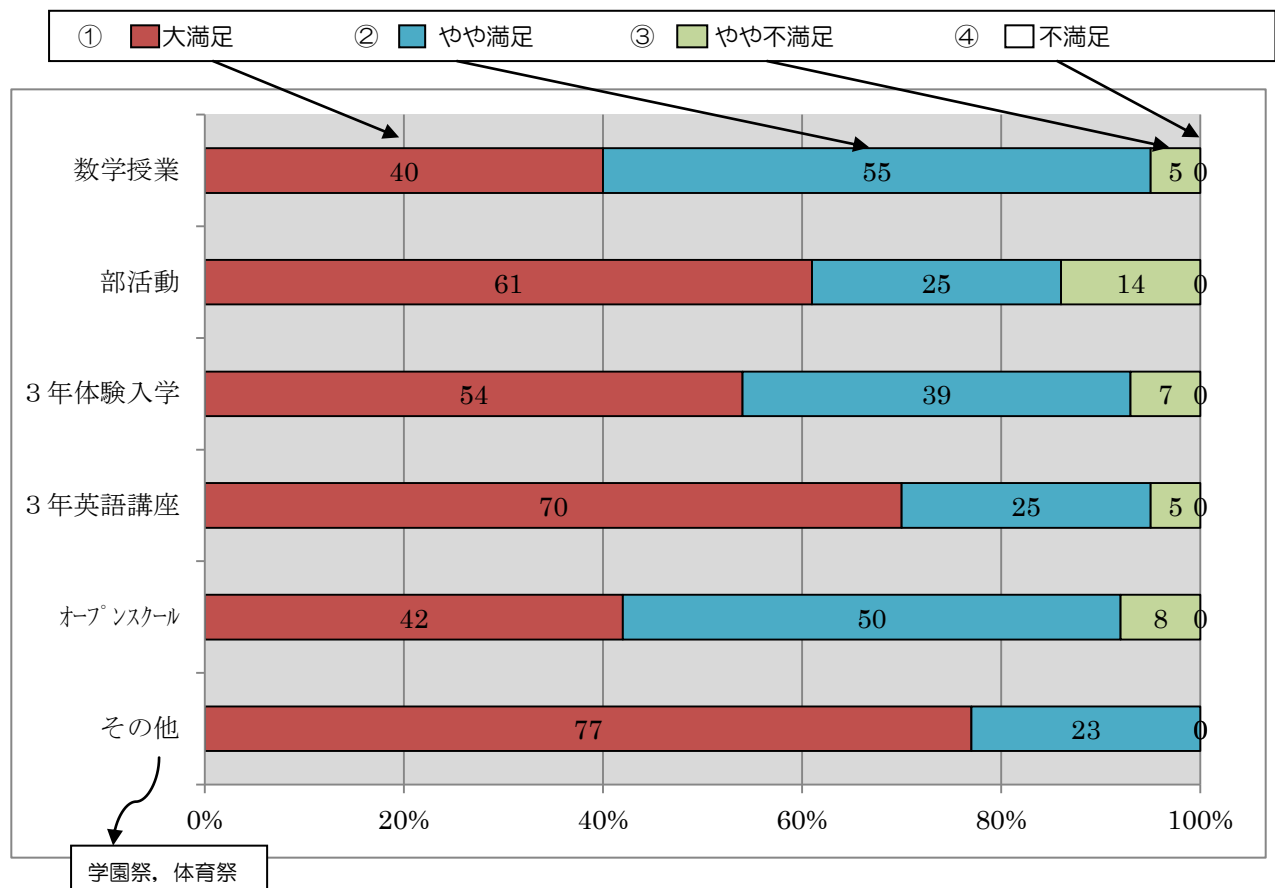
1. 中 学 生	回答者数 <u>199人</u> / 在籍者数 206人
2. 高 校 生	回答者数 <u>162人</u> / 在籍者数 167人
3. 中・高教職員	回答者数 <u>50人</u> / 全教職員数 57人
4. 小学校保護者	回答者数 <u>174人</u> / 対象児童数 185人
5. 中学校保護者	回答者数 <u>171人</u> / 生徒総数 206人
6. 地 域	回答者数 <u>72人</u> / 質問者数 92人

I. 連携型中高一貫教育に係るアンケート調査（中学生）の結果と考察

1(1) あなたは本年度、油木高校の先生や生徒さんから指導してもらったり、一緒に活動をしたことがありますか。



(2) 上記(1)の質問で「① あり」と答えた人で、それはどうでしたか。

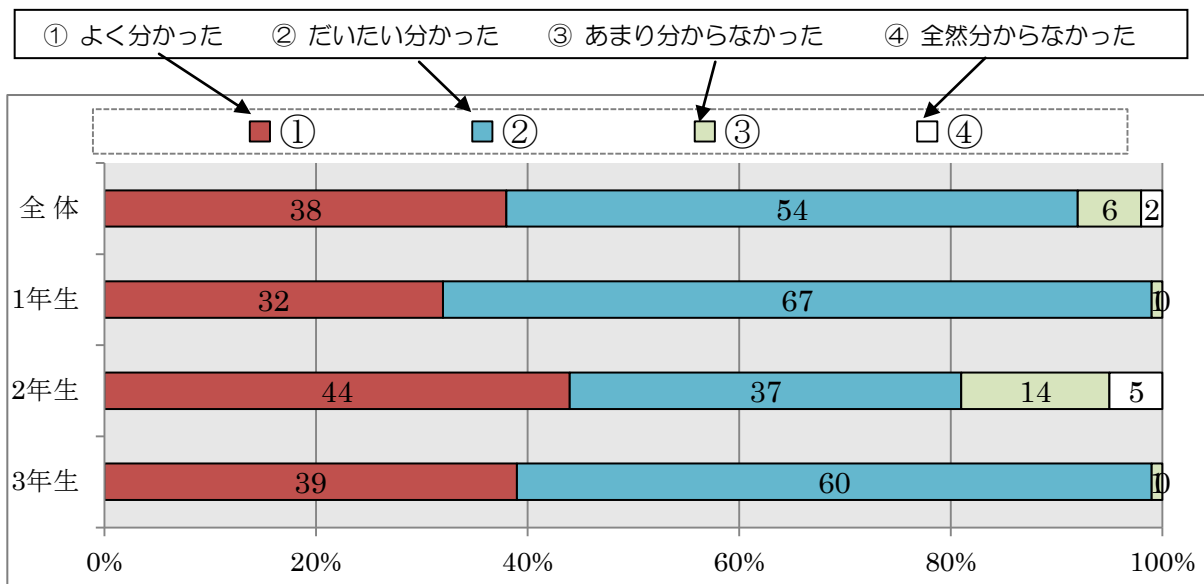


考察 本年度から2中学校とも全学年に定例的な数学の交流授業が実施され、中学生の連携教育活動体験者は97%であった。その中で、「数学」の授業満足度は、95%が「大満足・やや満足」の高い肯定的回答であった。今後も一層効果的な交流授業を実践していくために、交流授業の授業研究などが計画的に実施されていくことを期待したい。

その他の項目（部活動・3年体験入学・3年英語講座・産ビオープンスクール・その他）においても、ほぼ90%以上の高い肯定的評価であった。その中で、部活動交流においては、実施クラブ数や実施回数が過去最低で、今後いかに推進していくかが大きな課題である。

② 本年度、中学生全員に「連携型中高一貫教育ジャーナル『高原の風』や「油木高校パンフレット」を配布し、油木高校の状況などをお知らせしましたが、それらを見てどうでしたか。次の質問に教えてください。

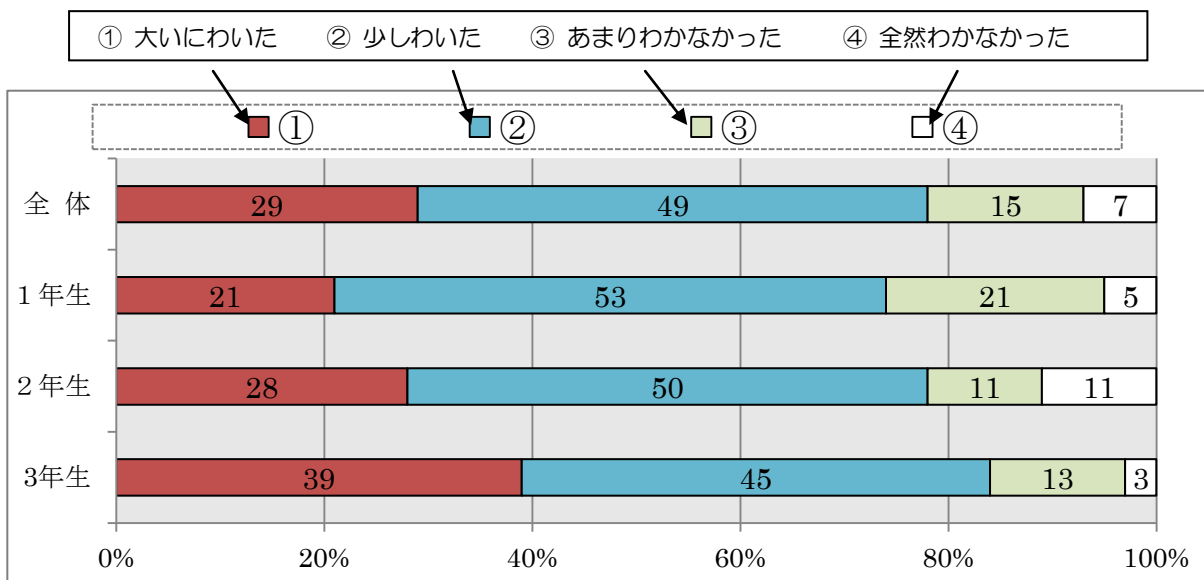
(1) 内容的にはどうでしたか。



考察 全体的には90%以上の生徒が「内容的には分かる」と肯定的回答をしているが、「全然分からなかった」が、2年生で14%（昨年10%）あった。

そこで、内容検討も必要であるが、生徒への配布時に、中高一貫校としての意識や関心を高めるためにも、先生の方から是非とも説明や注釈を加えながら、進路指導の一つとして活用や指導をお願いしたい。

(2) それらを見て、油木高校への関心がわきましたか。

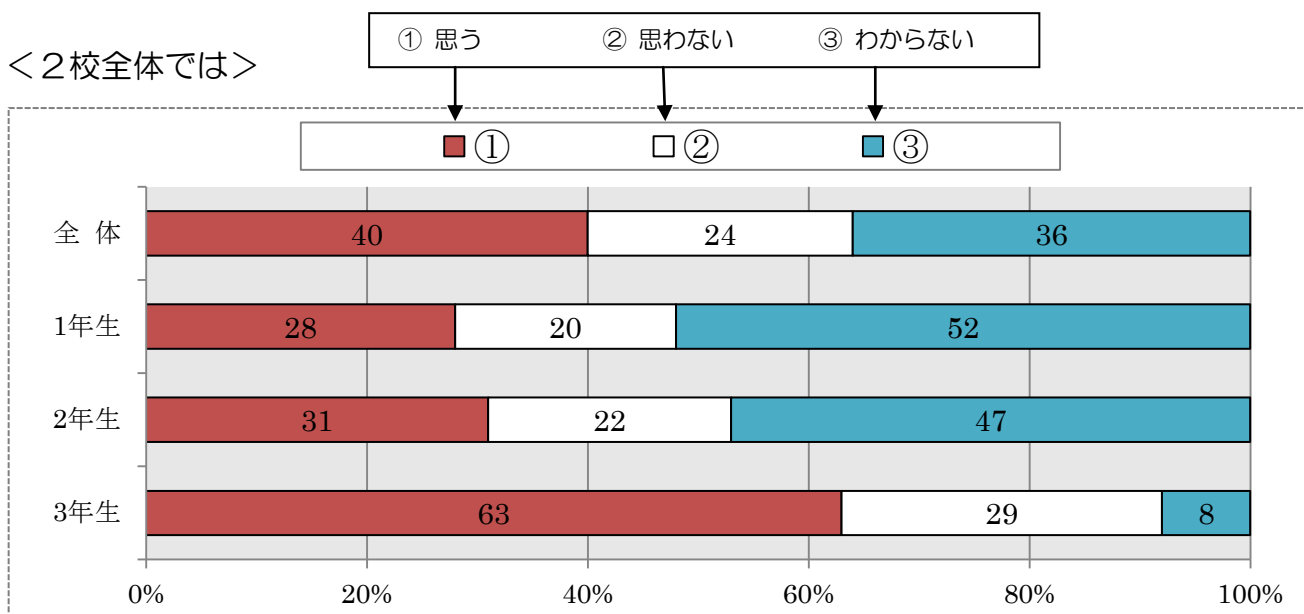


考察 全体的には78%（昨年度78%）の生徒が「関心がわいた」と肯定的回答であった。

広報紙の内容としては、油木高校を少しでも知っていただくために、油木高校の教育実践や教育実績を中心に取り上げてきた。今後もより油木高校への関心度が高まるような中身づくりに努力していく必要がある。また、中学校の進路学習において、全生徒に配布している「油木高校パンフレット」を是非ご活用いただきたい。

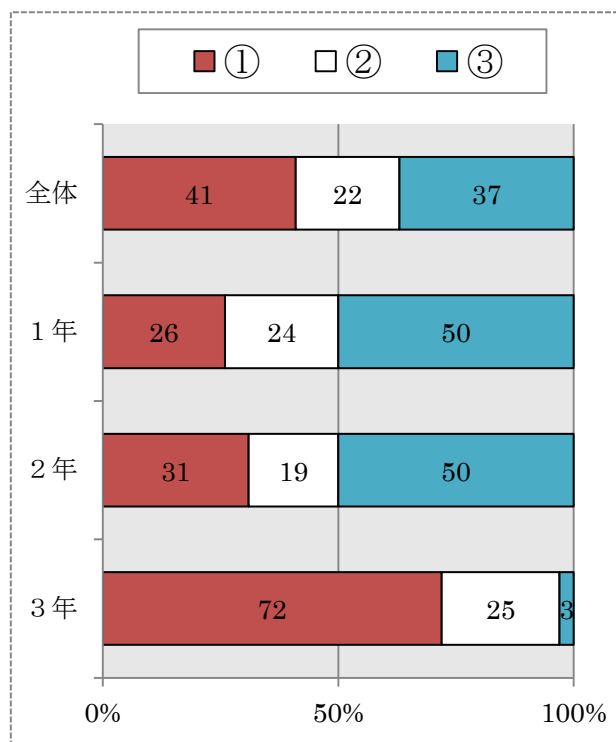
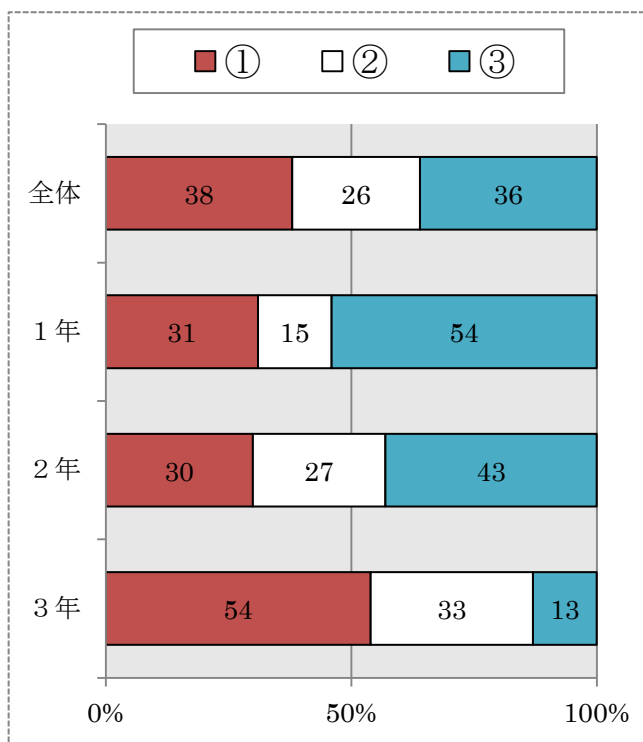
③ (1) あなたは油木高校に進学したいと思いますか。

< 2校全体では >



< 三 和 中 >

< 神 石 高 原 中 >



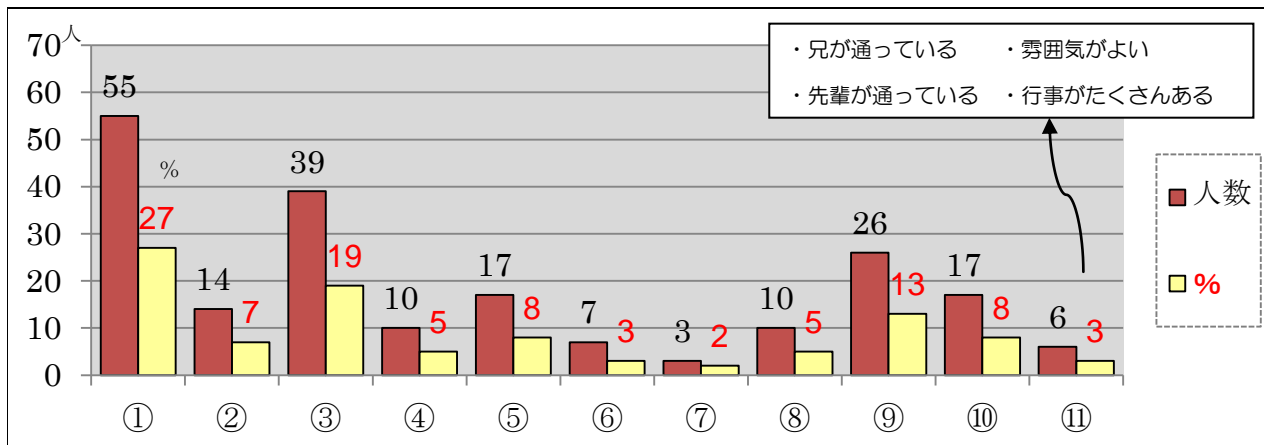
考察 全体では、油木高校への進学を「希望する」は40%（前年43%、前々年36%）で、やや前年より進学希望率は減少している。一方「希望しない」は24%（前年23%、前々年25%）と、ほぼ例年並みであった。

学年別では、3年生が例年のごとく格段に希望率が高い。これは、毎年各学校とも3年生における取り組みを重視していただいている成果であると思われる。今後においても油木高校への地元率は最低でも50%以上で、尚かつ学年54人以上（定員80人の2/3以上：県教委の指針数値）が確保されていくことが重要である。その為にも、このデータは、かなり厳しい数値と認識して取り組んでいく必要がある。

(2) 3(1)の質問で「① 思う」と答えた人で、その理由と思うものを次の中から選んでください。(複数回答可)

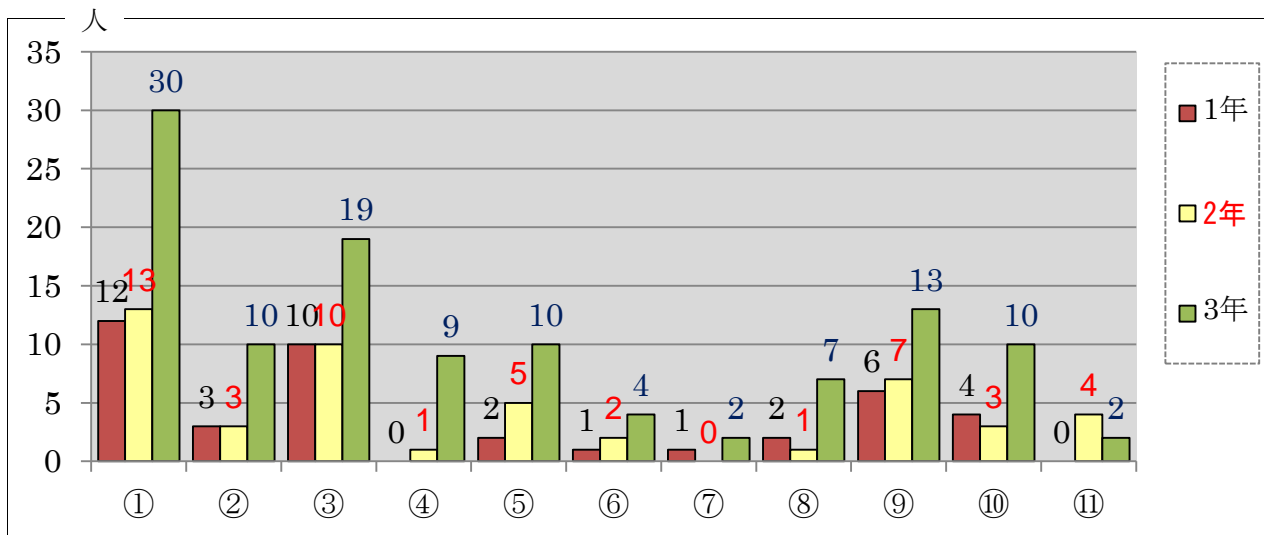
- ① 通学に便利 ② 進路実績 ③ 自分の希望 ④ 教育内容面 ⑤ クラブ活動面 ⑥ 寮がある
⑦ 施設設備がよい ⑧ 通信衛星授業が受けられる ⑨ 親・家族のすすめ ⑩ 友人関係 ⑪ その他

<2校全体では>



- ① 通学に便利 ② 進路実績 ③ 自分の希望 ④ 教育内容面 ⑤ クラブ活動面 ⑥ 寮がある
⑦ 施設設備がよい ⑧ 通信衛星授業が受けられる ⑨ 親・家族のすすめ ⑩ 友人関係 ⑪ その他

<学年別の人数では>



考察 ・2校全体で多い順は、1位：①「通学に便利」(27%)、2位：③「自分の希望」(19%)、3位：⑨「親・家族の薦め」(13%)と続いている。このことから、最も多く「通学に便利」と答えているだけに、地元高校の存続は今後も堅持していく必要がある。

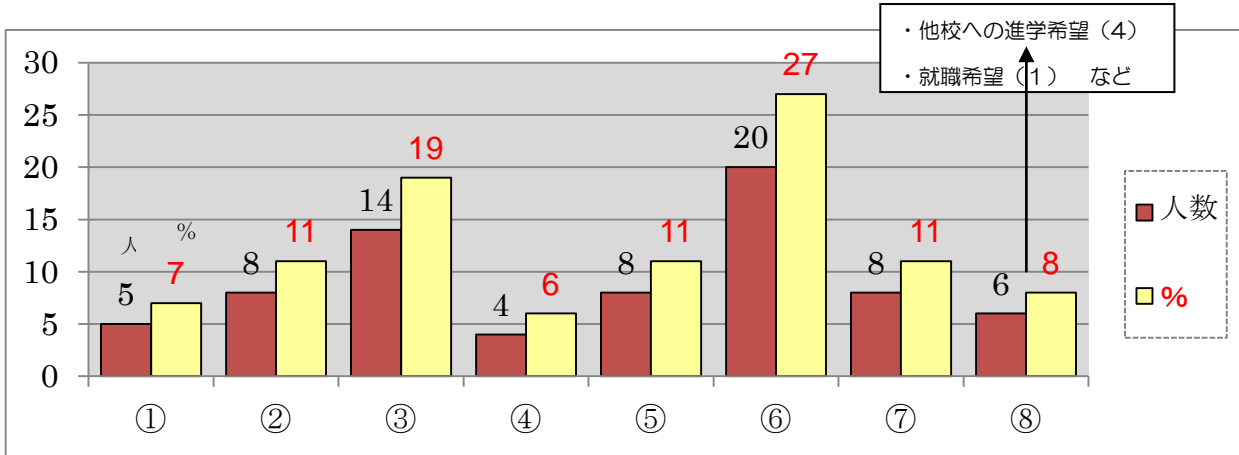
・学年別においても、概して同じような傾向である。

・高学年ほど多項目にわたって複数回答している生徒が多く見られる。これは、油木高校の良さを多方面にわたって感じていると思われる。そのことを低学年にも浸透するように情報提供していく必要がある。

(3) 3(1)の質問で「② 思わない」と答えた人で、その理由と思うものを次の中から選んでください。(複数回答可)

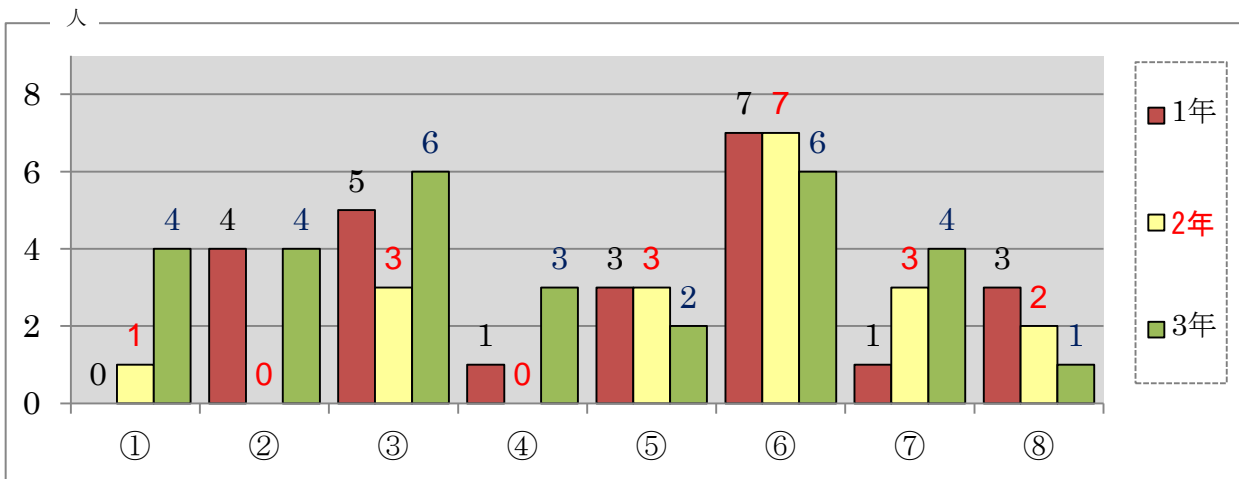
- | | | | |
|------------|------------|----------|---------|
| ① 通学が不便 | ② 教育内容面 | ③ クラブ活動面 | ④ 施設設備面 |
| ⑤ 希望の学科がない | ⑥ 高卒後の進路面で | ⑦ 友人関係 | ⑧ その他 |

<2校全体では>



- | | | | |
|------------|------------|----------|---------|
| ① 通学が不便 | ② 教育内容面 | ③ クラブ活動面 | ④ 施設設備面 |
| ⑤ 希望の学科がない | ⑥ 高卒後の進路面で | ⑦ 友人関係 | ⑧ その他 |

<学年別の人数では>



考察 ・2校全体で多いのは、1位：⑥「高卒後の進路面で」(27%)、2位：③「クラブ活動面」(19%)、3位：②「教育内容面」、⑤「希望学科なし」、⑦「友人関係」となっており、1・2位は昨年度と同様であった。

・「高卒後の進路面」については、「油木高校の進路実績」をアピールするとともに、大学受験に効果的な通信衛星授業や公設塾の開設などを今後アピールしていく必要がある。

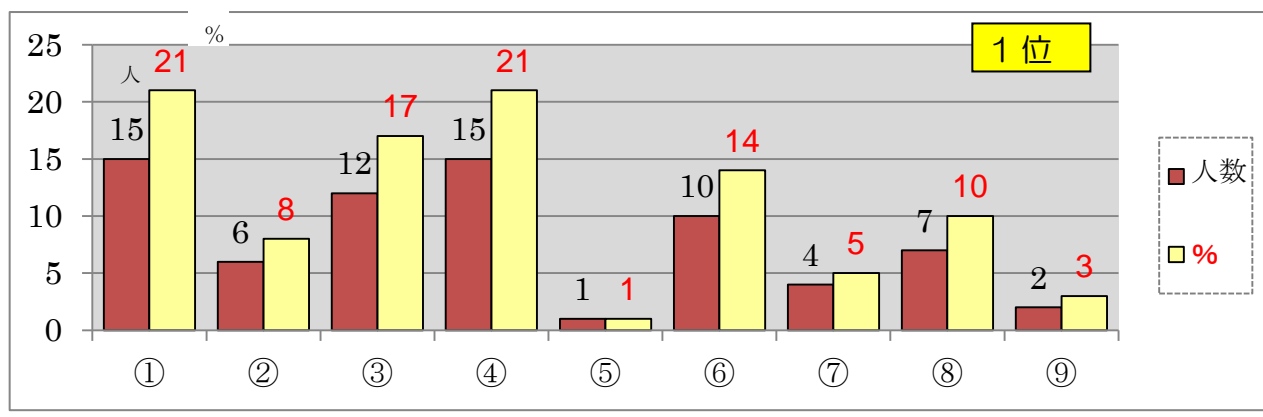
・「クラブ活動面」においても、小規模校でのデメリットもあるがメリットもあり、尚且つ、油木高校には体育・文化クラブ両面で全国に羽ばたく先輩もいることをアピールしていければと考える。

・「友人関係」で一緒の学校を選択する場合とそうでない場合がある。そのような意味から、中学時代の人間関係づくりが重要になってくる。即ち、学級づくりがキーポイントにもなりうる。

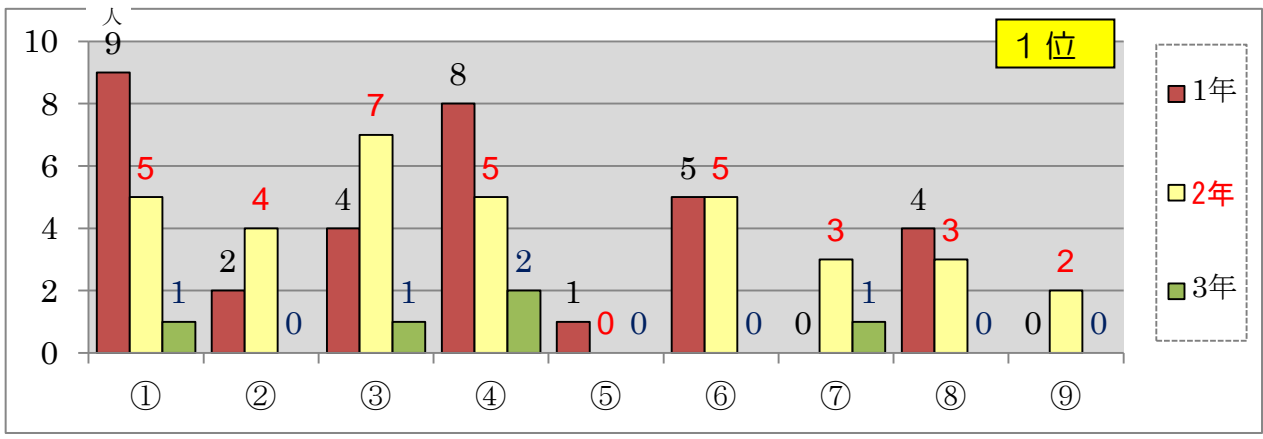
(4) 3(1)の質問で「③ わからない」と答えた人で、今後自分が進路選択する（高校を選ぶ）上で、重要視したいことはどんなことですか。 下記の①～⑨の中から重要視したい順番に2つ選び、番号で教えてください。

- | | | | | |
|----------|------------|--------|---------|---------|
| ① 通学便 | ② 伝統や校風 | ③ 進路実績 | ④ 教育内容面 | ⑤ 施設設備面 |
| ⑥ クラブ活動面 | ⑦ 親や家族のすすめ | ⑧ 友人関係 | ⑨ その他 | |

<2校全体では>

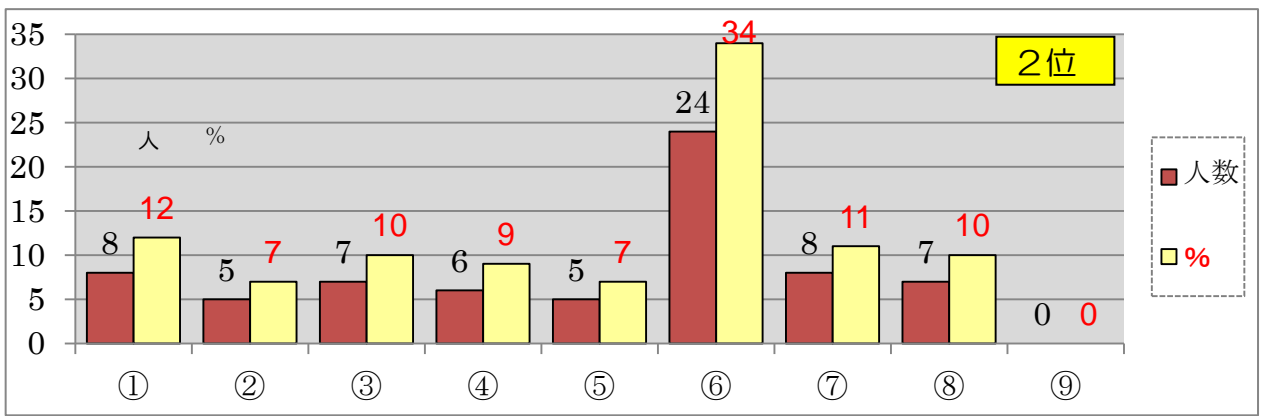


<各学年別の人数では>



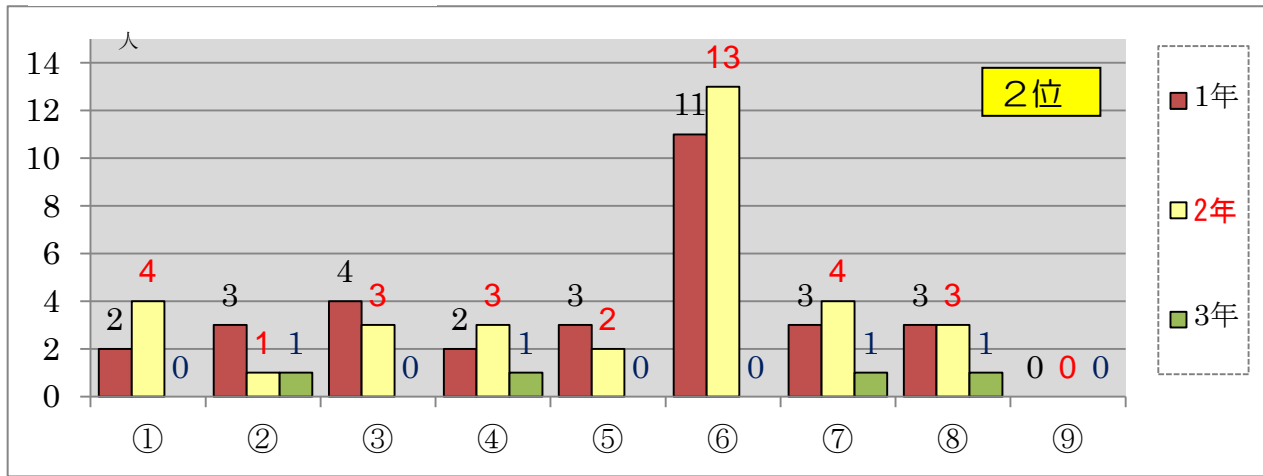
- | | | | | |
|----------|------------|--------|---------|---------|
| ① 通学便 | ② 伝統や校風 | ③ 進路実績 | ④ 教育内容面 | ⑤ 施設設備面 |
| ⑥ クラブ活動面 | ⑦ 親や家族のすすめ | ⑧ 友人関係 | ⑨ その他 | |

<2校全体では>

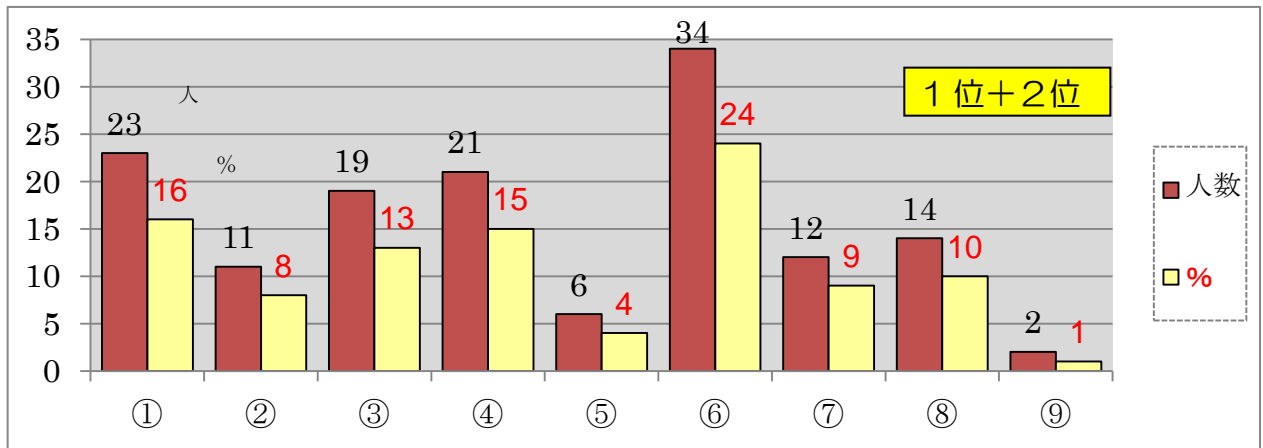


- ① 通学便 ② 伝統や校風 ③ 進路実績 ④ 教育内容面 ⑤ 施設設備面
- ⑥ クラブ活動面 ⑦ 親や家族のすすめ ⑧ 友人関係 ⑨ その他

<各学年別の人数では>

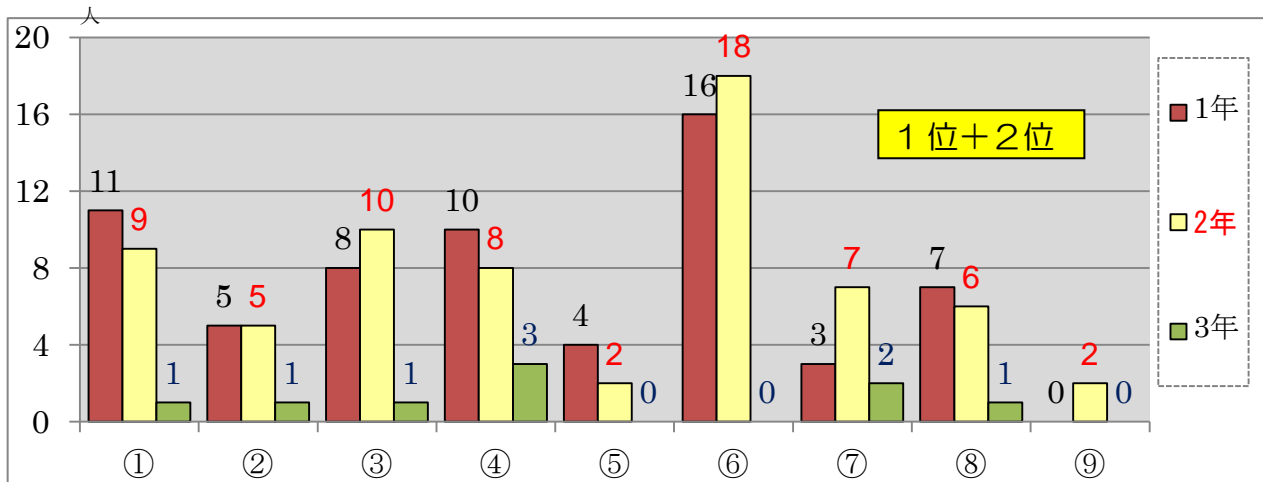


<2校全体では>



<各学年別の人数では>

- ① 通学便 ② 伝統や校風 ③ 進路実績 ④ 教育内容面 ⑤ 施設設備面
- ⑥ クラブ活動面 ⑦ 親や家族のすすめ ⑧ 友人関係 ⑨ その他



考察 ・2校全体での1位で多い順は、1位：①「通学便」・④「教育内容面」(21%)、3位：③「進路実績」(17%)、4位：③「クラブ活動面」(14%)となっている。(昨年度は1位：①「通学便」(24%)、2位：④「教育内容面」(19%)、3位：①「クラブ活動面」(17%)、4位：⑥「進路実績」(16%)

・2校全体での2位で多い順は、1位：⑥「クラブ活動面」(34%)がダントツ高く、2位：①「通学便」(12%)、3位：⑦「親や家族の薦め」(11%)、4位：③「進路実績」・⑧「友人関係」(10%)となっている。

・2校全体での1位+2位で多い順は、1位：⑥「クラブ活動面」(24%)、2位：①「通学便」(16%)、3位：④「教育内容面」(15%)、4位：③「進路実績」(13%)となっている。

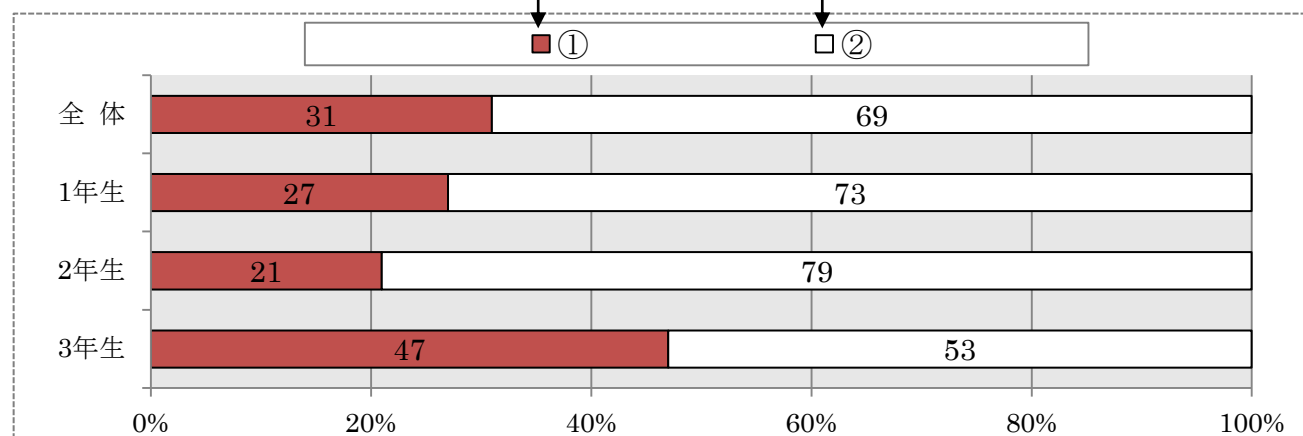
・各学年別に見たときの特徴として言えることは、1学年と2学年はだいたい同じような傾向が見られ、⑥「クラブ活動面」が非常に多い。しかし、3学年は「0」であった。

以上のような結果は昨年度とほぼ同様で、生徒が高校選択する時の重要項目は、「クラブ活動面」「通学便」「教育内容面」「進路実績」が多いと思われる。よって、それらが充実していくような取り組みや支援策を今後も検討していく必要がある。

- 4 現在、町教育委員会では油木高校の魅力づくりとして、油木高校内に「学習塾を開設」したり、「海外への短期（語学・農業）研修制度の新設」などが検討されていますが、そのことについて次の質問に教えてください。

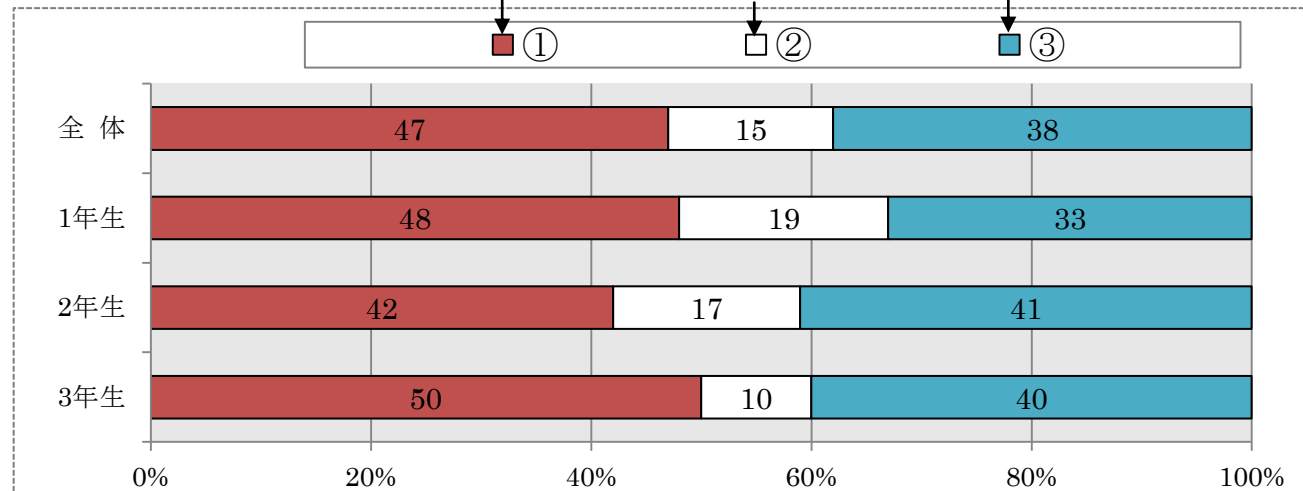
(1) 上記のような内容について

(① 知っていた ② 知らなかった)

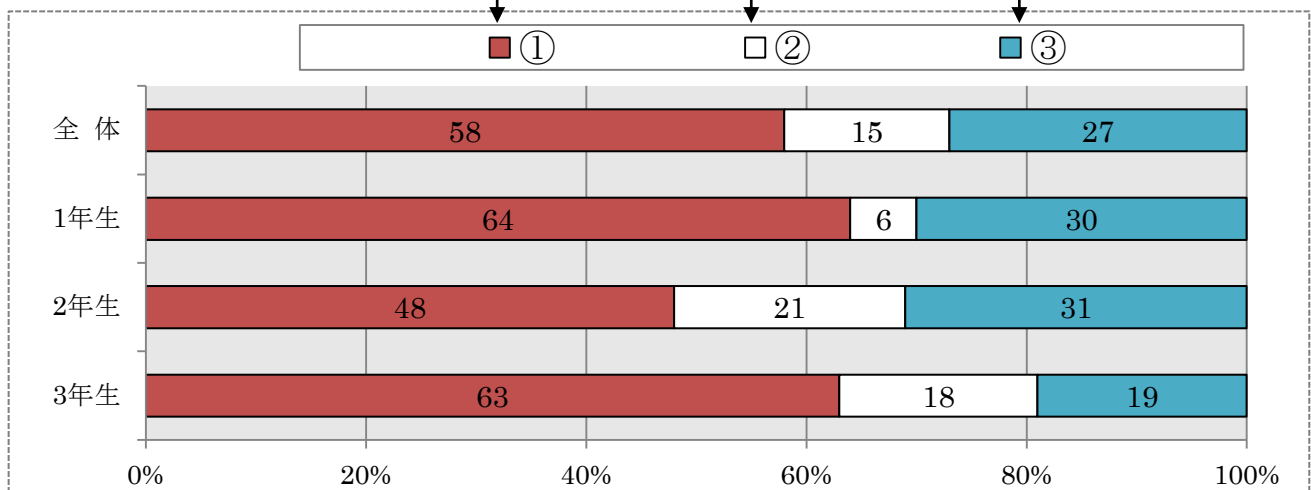


(2) 学習塾の開設について

(① 魅力を感じる ② 魅力を感じない ③ わからない)



(3) 海外への短期研修制度について (① 魅力を感じる ② 魅力を感じない ③ わからない)



考察 ・学習塾の開設や海外への短期研修制度の創設に係る事柄について、中高一貫ジャーナル第11号（12月発行）に記載していたが、認知度は半数以下であった。（中高一貫ジャーナルが読まれていないのか？）

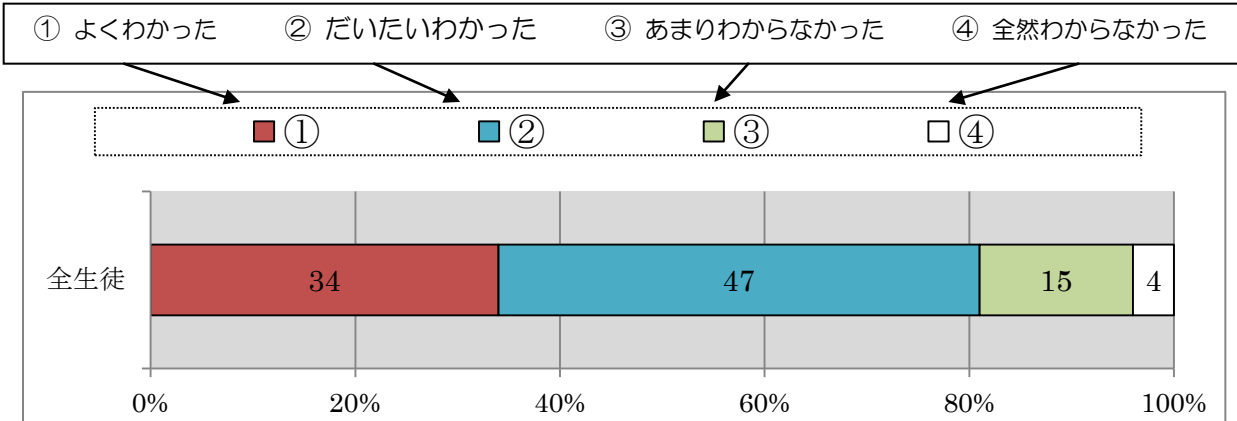
・「学習塾の開設」については、「魅力を感じる」が約半数（47%）で、その中でも3年生がやや魅力感が大きいことが分かる。

・「海外への短期研修制度」で「魅力を感じる」は58%である。その中で、1・3年生が60%以上の魅力感を持っている。

以上のことから、現中学生にとって「学習塾の開設」や「海外への短期研修制度」は、今の段階では決定的な魅力になりきれていない。今後中身が明確化され次第、内容の紹介やアピールをしていく必要がある。

Ⅱ. 連携型中高一貫教育に係るアンケート調査（高校生）の結果と考察

① 本年度、油木高生全員に広報紙「連携型中高一貫教育」year刊『高原の風』を配布しましたが、内容的にどうでしたか。

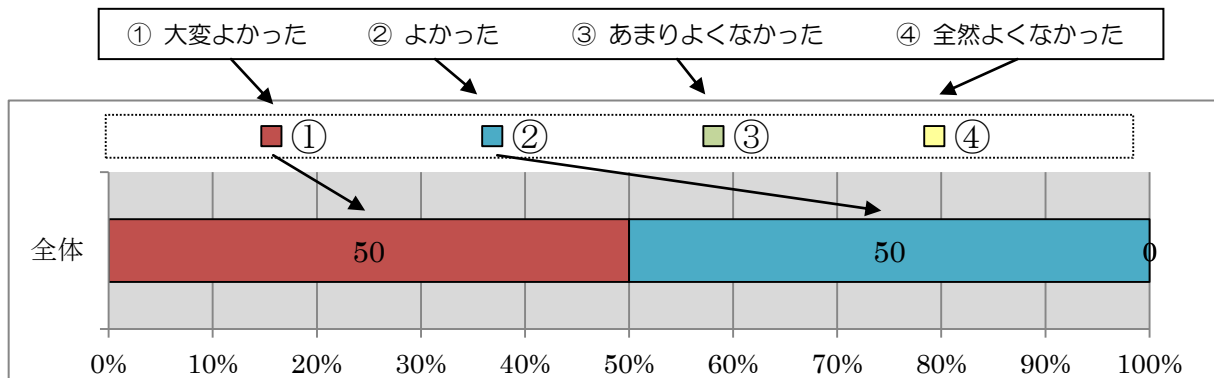


考察 本年度も高校生全員に毎回広報紙を配布してきたが、「内容的に分かった」という肯定的評価は81%（前年：75%）であった。一方「わからない」という否定的評価は19%（前年：25%）と前年より減少したが、今後一層の工夫が必要である。（ちなみに、中学生の肯定的評価は92%、否定的評価は8%である。）

② (1) あなたは本年度、中高連携で町内の中学生を指導したり、一緒に活動したことがありますか。
「ある」と答えた生徒は19人（12%）で、昨年度17人（11%）より多少増加している。
活動内容としては

・部活動（10人） ・体育祭（9人） ・文化祭（1人）

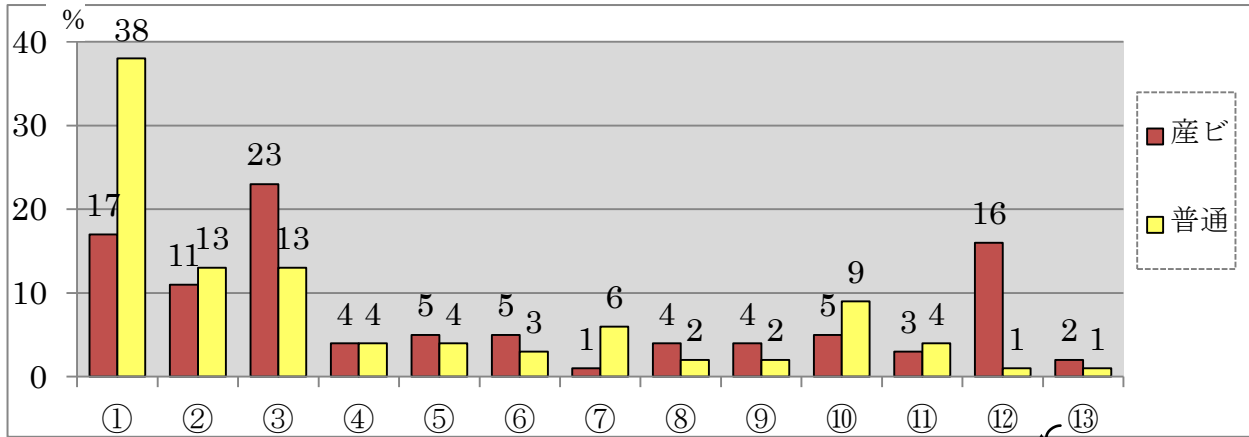
(2) (1)の質問で「①ある」と答えた人で、それはどうでしたか。



考察 活動内容や学校行事で生徒交流した生徒は、中高生共に大多数の生徒が「大変よかった・よかった」と好感をもっており、今後できるだけ実践の機会を増やしていけるように努めていく必要がある。
生徒交流では、「部活動交流」や「生徒会交流」が徐々にでも取り組めることを期待している。

③ あなたが油木高校を進路選択した理由は何ですか。(複数回答可)

- | | | | |
|----------|-----------|-------------|-----------|
| ① 自宅から近い | ② 親・家族の薦め | ③ 自分の希望 | ④ 教育内容面 |
| ⑤ クラブ活動面 | ⑥ 寮がある | ⑦ 通信衛星授業がある | ⑧ 進学就職に有利 |
| ⑨ 評判 | ⑩ 友人関係 | ⑪ 経費が安い | ⑫ 学科への興味 |
| ⑬ その他 | | | |

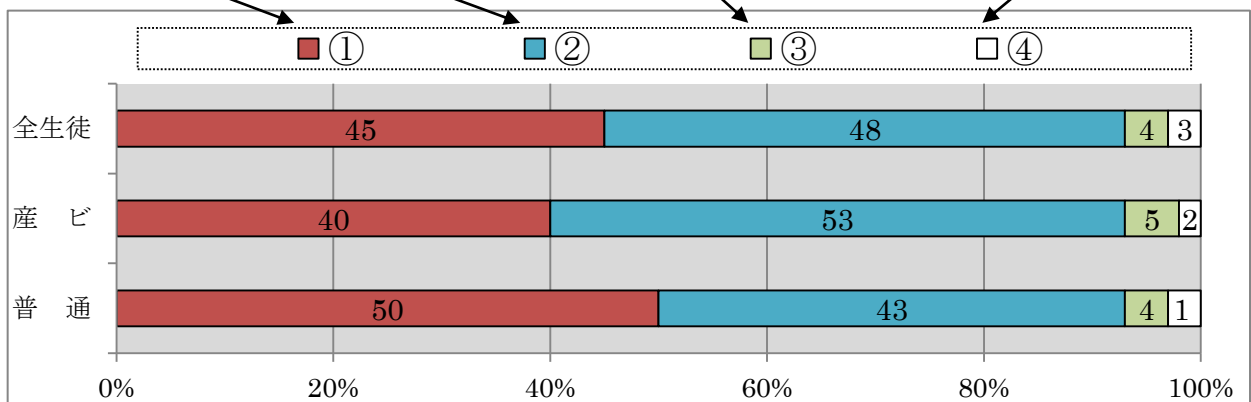


・先生の薦め (3)

考察 全体的に多いのは、①「自宅から近い」③「自分の希望」②「親・家族の薦め」の順であるが、学科ごとにみると、普通科は圧倒的に①「自宅から近い」が多いが、産業ビジネス科は、③「自分の希望」が最も多かった。また学科ごとの特徴としては、産業ビジネス科で⑫「学科への興味」、普通科は⑦「通信衛星授業がある」であった。

④ あなたは油木高校へ進学して、どうですか。

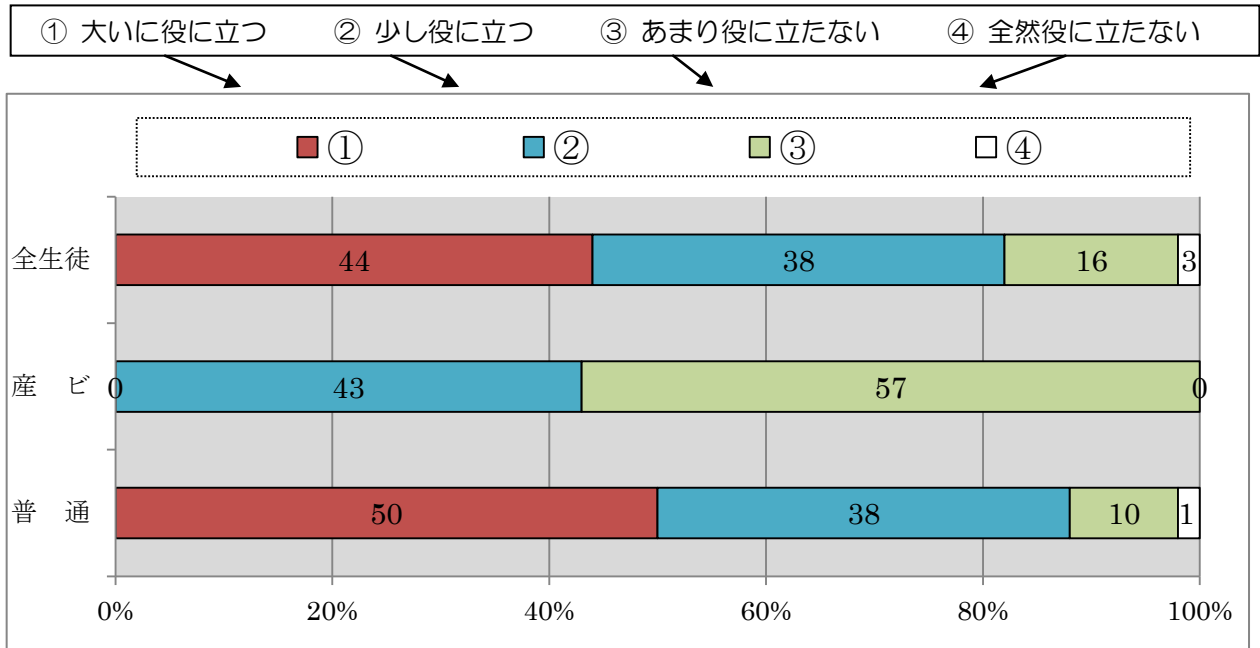
- | | | | |
|----------|--------|-------------|------------|
| ① 大変よかった | ② よかった | ③ あまりよくなかった | ④ 全然よくなかった |
|----------|--------|-------------|------------|



考察 全体的にはほとんどの生徒 (93%) が「よかった」と肯定的評価をしている。中でも、「大変良かった」と満足している生徒が半数近く (45%) いる。
科ごとにみた時、「よくなかった」と否定的評価をしている生徒は、産ビ 7%、普通科 5%とあまり差はない。その中で、「全然よくなかった」とする生徒が、産ビ 2%、普通科 1%いる。その要因は何か追究できるとよい。

⑤ 通信衛星授業を受けてみての感想はどうか？

[受講回答者 55人 (普：48人, 産ビ：7人)]



● 「① 大いに役に立つ」理由として記入されていたものは

- ・ 分かりやすい (10)
- ・ 予習や復習ができる (5)
- ・ 学校以外のことが学べる (1)
- ・ 入試を意識した内容になっている (1)
- ・ 受験の対策が聞ける (1)
- ・ 面白いのでやる気が出る (1)

● 「② 少し役に立つ」理由として記入されていたものは

- ・ 分かりやすい (6)
- ・ よい勉強になる (1)
- ・ ちゃんと受ければ役に立つ (1)
- ・ 3年生はセンター試験向けに役に立つ (1)
- ・ 時々内容が難しい (1)

● 「③ あまり役に立たない」理由として記入されていたものは

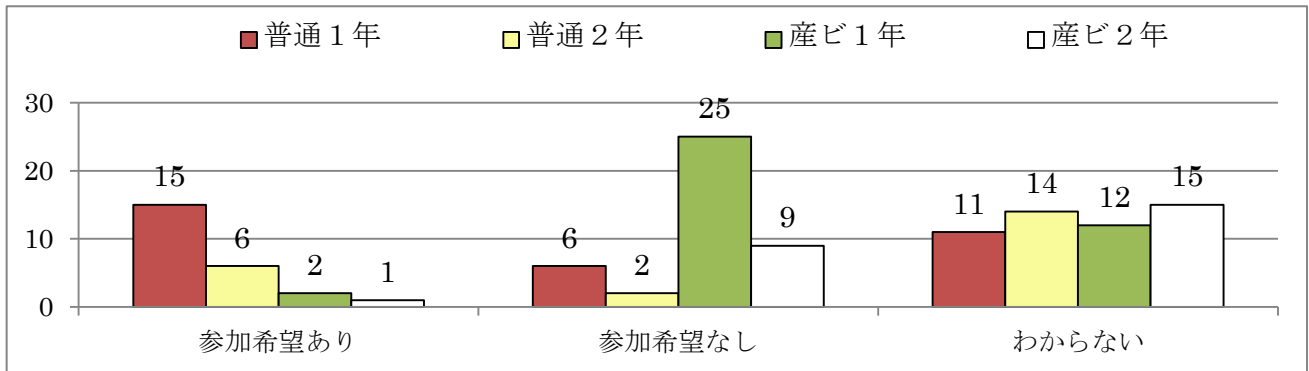
- ・ 内容が難しい (1)
- ・ 質問ができない (1)

考察 受講生の多くは普通科生 (87%) であるが、大多数の生徒 (82%) が「役に立つ」との肯定的回答であった。中でも「大学受験やセンター試験に役立つ」と感じていることなどからも、この事業は続けていく必要がある。

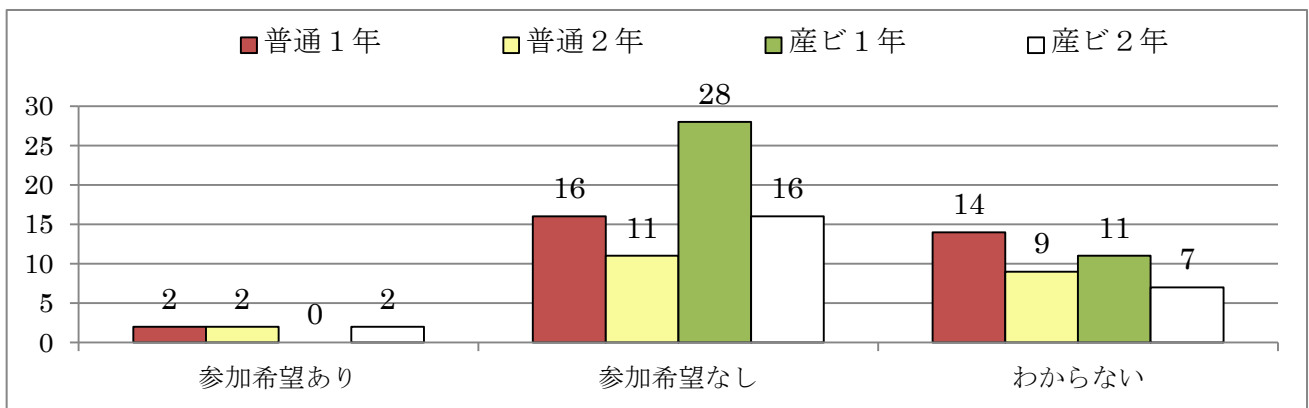
また、前記の間③ (油木高校を選択した理由) から分かるように、普通科生の学校選択理由に「通信衛星授業がある」ことを上げている者が多いことから、この事業の継続が必要であると言える。

⑥ 本町が油木高校の魅力策として「油木高校内への学習塾の開設」や「海外への短期（語学・農業）研修制度の創設」などを検討しているところですが、そのことについてどう思いますか。

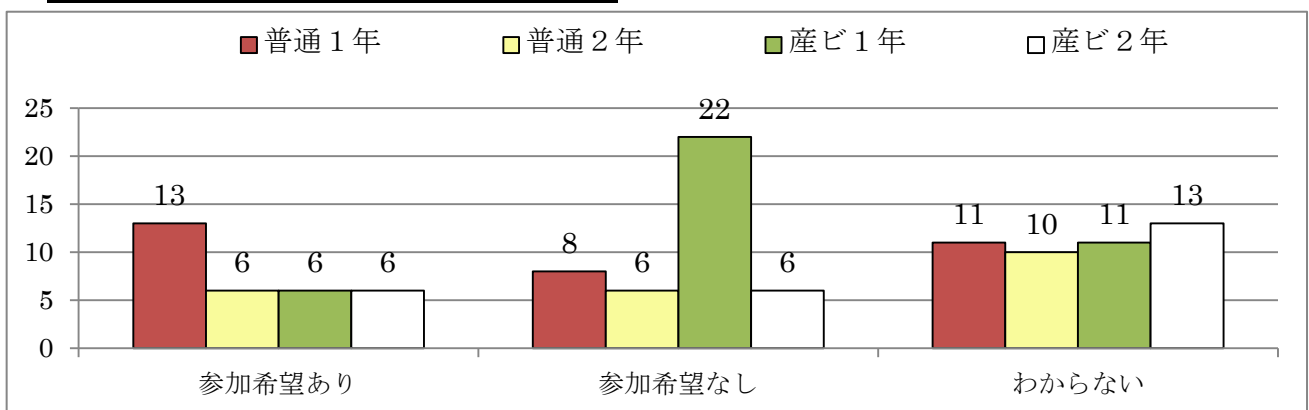
(1) 校内へ英語・数学の学習塾が開設されたら (① 参加希望ある ② 参加希望ない ③ わからない)



(2) 中国語の学習塾が開設されたら (① 参加希望ある ② 参加希望ない ③ わからない)



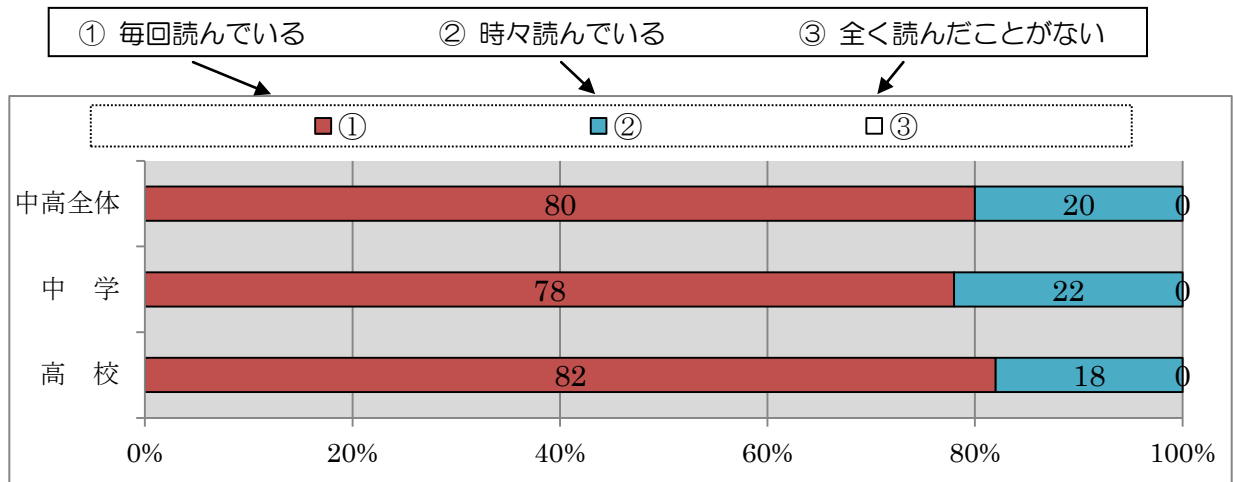
(3) 海外への短期（語学・農業）研修制度が創設されたら (① 参加希望ある ② 参加希望ない ③ わからない)



考察 ・「学習塾の開設」については、普通科生の参加希望が多い。塾での指導内容とか指導方法等が明確でないためか、「わからない」との回答もかなり多い。いずれにせよ、開設時には出来るだけ効果の上がる中身づくりが重要である。
 ・「中国語の学習塾」については、参加希望者が少数である。
 ・「海外への短期研修制度」は、普通科・産業ビジネス科ともに参加希望者がある。予算的なこともあり、希望者全員とはいかないが、油木高校の魅力づくりや生徒の学習意欲向上に向けた制度設計が必要である。

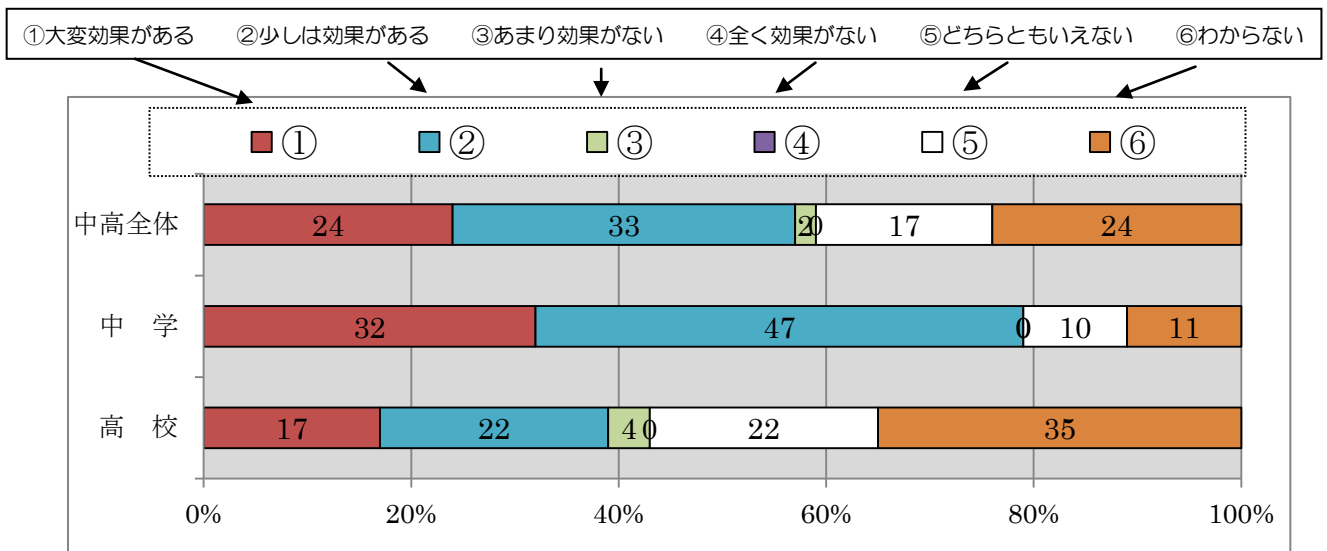
Ⅲ. 連携型中高一貫教育に係るアンケート調査（中高教職員）の結果と考察

1 広報紙「連携型中高一貫教育」ジャーナル『高原の風』を年3回町内全学校に配布していますが、読んだことがありますか。



考察 「毎回読んでいる」が前年よりかなりアップ（66%→80%）した。「全く読んだことがない」も5%→0%と減少した。今後一層教育指導に役立つ中身を情報提供していくことが重要である。

2 本年度から連携型中高一貫教育が本格実施となり、中高の定例的な授業交流（中：数学，高：音楽）が実施されていますが、連携教育の効果についてどう思いますか。

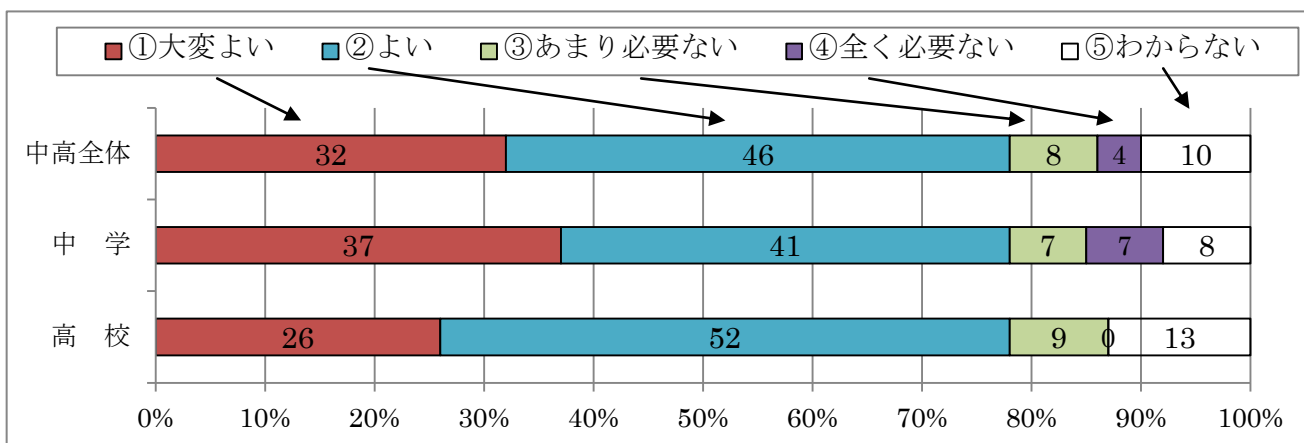


考察 交流授業は、中学校では全学年全員対象に、高校は全学年の音楽科選択生徒のみを対象に実施されており、中高で実施状況が違うだけに、教育効果が図りにくいが、全員対象の中学校では、約80%の教員が効果を認めている。

3 本町が油木高校の魅力策として「油木高校内への学習塾の開設」や「海外への短期（語学・農業）研修制度の創設」などを検討しているところですが、それらのことについてどう思いますか。

(1) 油木高校内への学習塾の開設

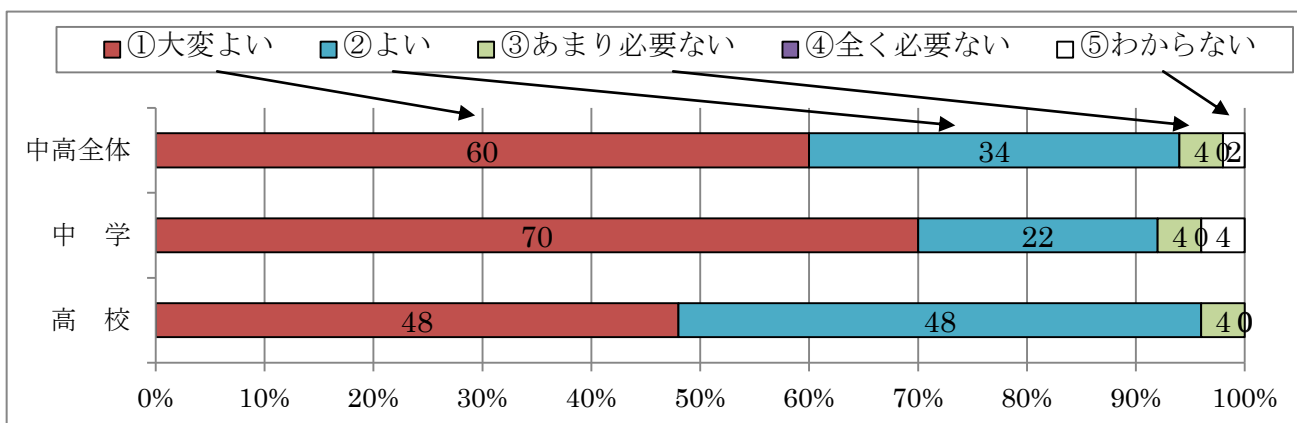
(① 大変よいことである ② よいことである ③ あまり必要ない ④ 全く必要ない ⑤ わからない)



考察 学習塾の開設について「よい」とする肯定的回答は、中高共に 78%である。反対に「必要ない」とする回答も少数ではあるが中高共にある。そこで、開設時には高校とコンセンサスをよくとって実施する必要がある。

(2) 海外への短期（語学・農業）研修制度の創設

(① 大変よいことである ② よいことである ③ あまり必要ない ④ 全く必要ない ⑤ わからない)



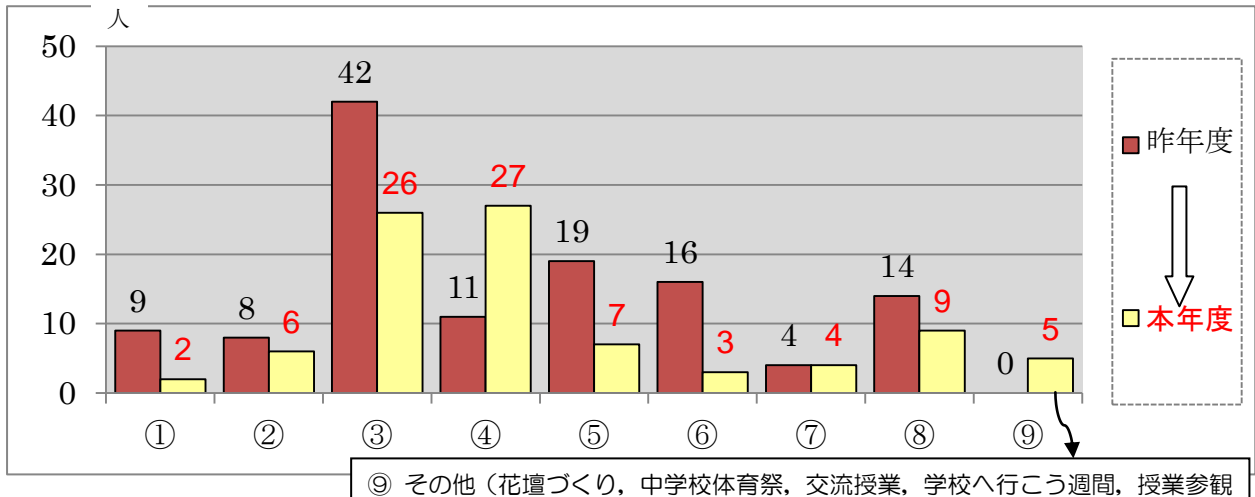
考察 中高共に 90%以上が肯定的回答である。期待の大きさを感じる。それだけに意義ある制度設計が求められる。

(3) 油木高校の新たな魅力策として、何かあればご記入ください。（自由記述）

- | | | | |
|-------------------------|---------------|-----------------------------|-------------|
| 中学校 | | | |
| ・挨拶の徹底 | ・全国レベルの部活動の育成 | ・寮の完備 | ・公務員養成講座の開設 |
| ・産品の取り組みを中学生へもっとアピールする。 | | ・特別支援学級（自閉症・情緒）の生徒の入学 | |
| ・生徒の表現力を鍛え、発揮させ活力を生む | | ・特色有る教育内容の設定 | |
| ・一人一頭の牛の飼育 | ・イノシシ肉の加工 | | |
| 高 校 | | | |
| ・制服の変更 | ・積極的な部活動交流 | ・留学制度 | ・バスの増便 |
| ・学校給食 | ・全寮制 | ・特色有る教育課程（選択科目に地域文化：神楽等の導入） | |

4 (1) 下欄①～⑨の中高連携教育に係る取り組みの中で、本年度参加されたものがあれば、該当番号に○印で答えてください。(複数回答可) ④ 但し、⑦は高校のみ、⑧は中学校のみ ご回答ください。

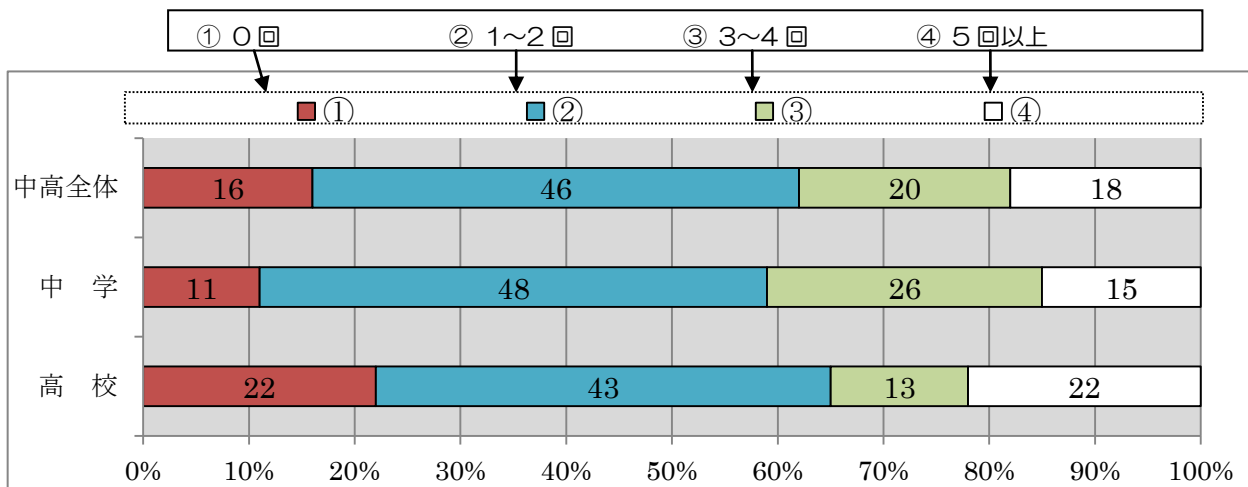
- | | | |
|--|---------------------|-------------|
| ① 出前授業(高校英着入門講座も含む) | ② 部活動交流 | ③ 町研夏季全体研修会 |
| ④ 教科部会(授業研究など) | ⑤ 教科外部会(進路・生指・連携など) | |
| ⑥ 中高一貫講演会(6月24日、隠岐島前高校の取り組み) | ⑦ 中学校の研究会(*高校のみ回答) | |
| ⑧ 油高の行事等(学園祭・オープンカール・体育祭・総合的な学習発表会・PTA講演会・油高杯剣道大会など)(*中学校のみ回答) | | |
| ⑨ その他() | | |



考察 昨年度と比較した時、増加しているのは④「教科部会」だけで、後は全て減少している。本格実施後の本年度からは「授業交流」や②「部活動交流」を連携実践の柱としていた中で減少しただけに、その原因を追及して今後に繋げていく必要がある。

一方、④「教科部会」が倍増以上に増加し、中高連携されたことは大変喜ばしいことである。

(2) 上記4(1)で、参加した回数は総合計で何回ありますか。



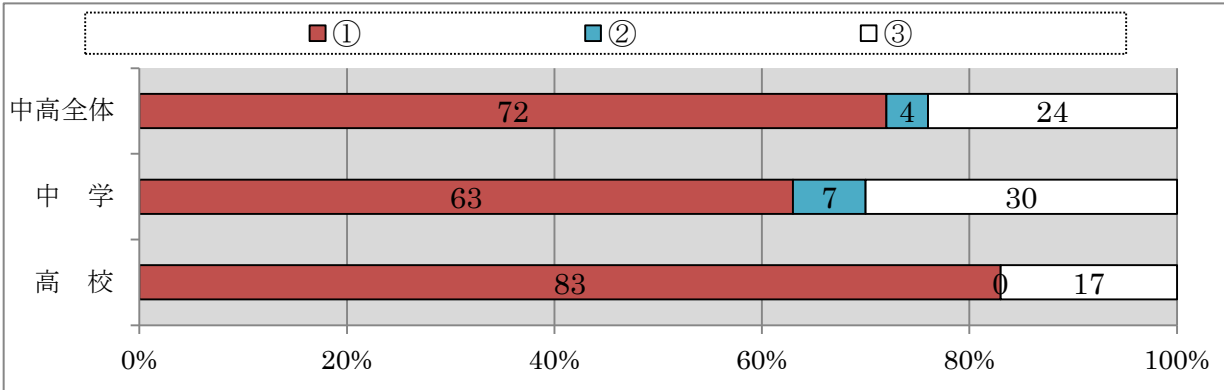
考察 0回を含めて2回までが昨年度と同様の62%で、半分以上を占めた。

反対に「5回以上」は前年度(13%)より5%アップしている。

今後は出来るだけ多くの教職員が関わって、徐々に連携実践が活発化されることを期待している。

(3) 来年度、中高連携に係る取り組みを本年度以上に取り組んでいきたいと思いませんか。

① 思っている ② 思っていない ③ わからない

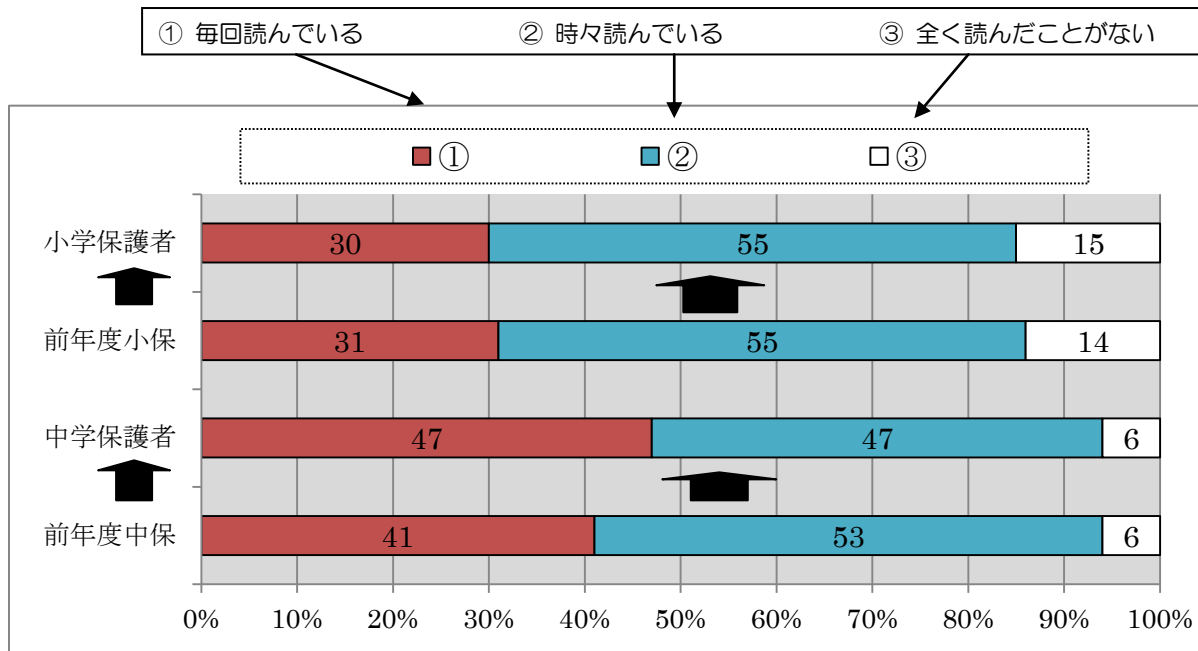


考察 今後において、中高教職員の多く（72%）が、今まで以上に連携教育に取り組んでいきたいという意欲を持って頂いていることは大変喜ばしいことである。

学校では色々な取り組みがあるので、無理のない範囲で、自分に出来ることを考えて、計画的に取り組んでいくことが重要である。

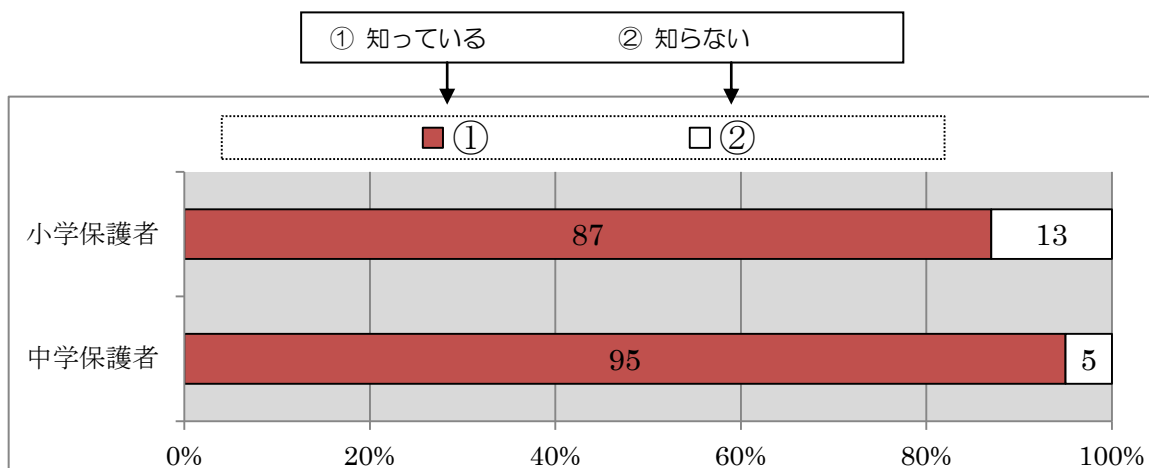
Ⅳ.連携型中高一貫教育に係るアンケート調査(小・中学校保護者)の結果と考察

① 広報紙「連携型中高一貫教育」yearル『高原の風』を年3回町内全戸に配布していますが、読んだことがありますか。



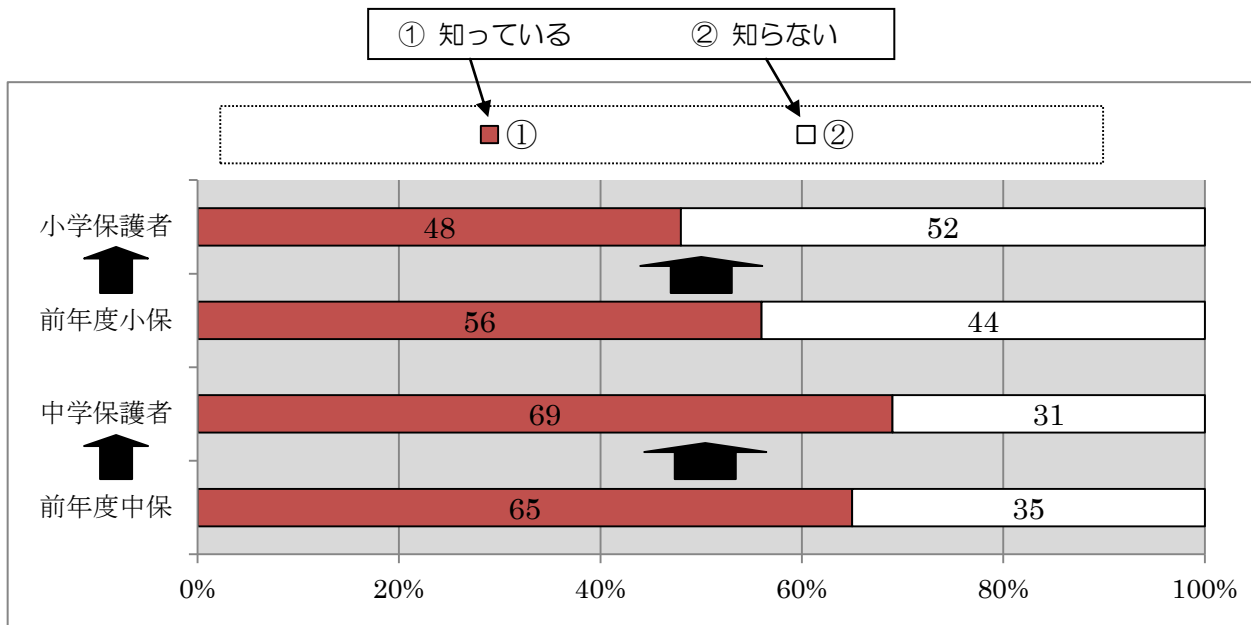
考察 小・中学校共に前年とほぼ同じような数値で、ほとんどの保護者が読んで頂いている。 今後は、「毎回読んでいる」が50%以上になるよう魅力ある中身づくりに努めていく必要がある。

② 平成 26 年 4 月から油木高校と町内中学校は連携型中高一貫教育が本格実施されていることをご存じですか。



考察 小中学校共に大多数の保護者が「平成 26 年 4 月からの本格実施」を知っておられる。しかし、中学校保護者で「知らない」が5%おられるのは残念である。なぜなら、中学校は連携校だからである。それだけに、色々な場を通して連携教育の中身を保護者に情報提供していく必要がある。

③ 本町が油木高校の教育活動推進や保護者負担軽減のために助成していることをご存じですか。

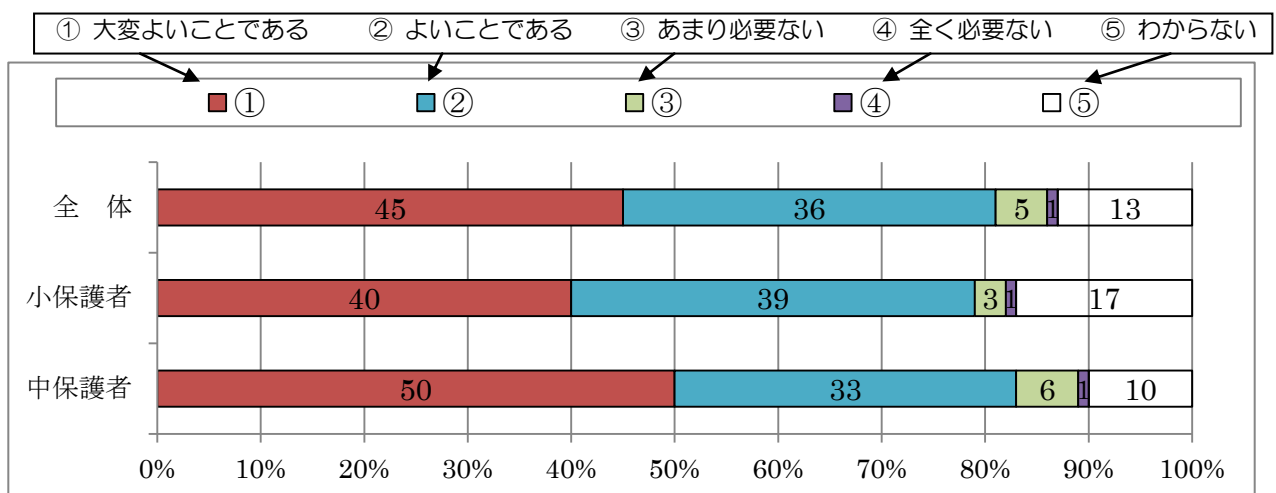


考察 前年比較では、多少ながら小学保護者が減少・中学保護者が増加している。その中で、特に中学保護者については、認知度100%にしていく必要がある。

そのためにも、H27年度は油木高校の魅力づくり支援策として、新たな助成制度等も設けられるので、保護者は勿論のこと、町民全体にもしっかりとアピールしていく必要がある。(情報紙作成中)

④ 本町が油木高校の魅力策として「油木高校内への学習塾の開設」や「海外への短期(語学・農業)研修制度の創設」などを検討しているところですが、そのことについてどう思いますか。

(1) 油木高校内への学習塾の開設



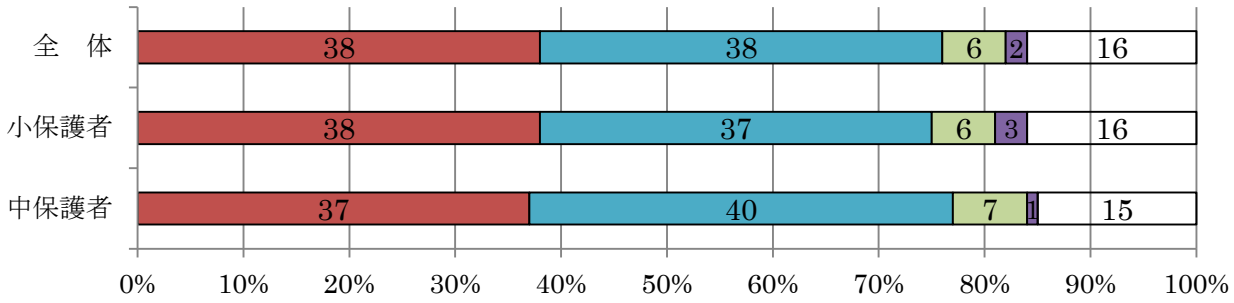
考察 小・中保護者ともに約80%が「よいことである」という肯定的回答であるが、まだ未開設のため「わからない」との回答も多い。

油木高校の魅力とするためにも、生徒や保護者の期待に応えられる公設塾にしていくことが求められる。

(2) 海外への短期（語学・農業）研修制度の創設

① 大変よいことである ② よいことである ③ あまり必要ない ④ 全く必要ない ⑤ わからない

■ ① ■ ② ■ ③ ■ ④ □ ⑤



考察 小・中保護者ともに同じような傾向で、76%が肯定的回答である。

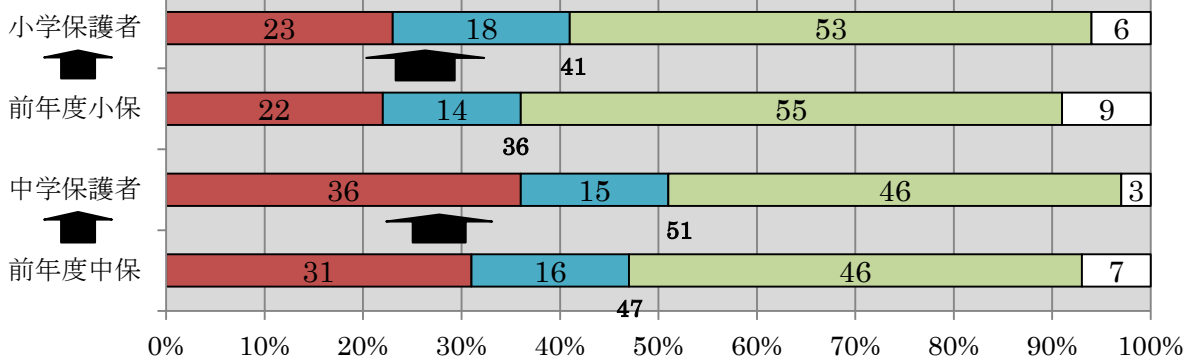
「海外への短期研修制度」は「公設塾」と比較すると、やや肯定的回答が低い（-5%）。

この制度も油木高校の魅力づくりや生徒の学習意欲向上に向けた制度設計が必要である。

⑤ あなたの子どもさんを油木高校に進学させたいと思いますか。

① 入学させたい ② どちらかと言えば入学させたい ③ わからない ④ 入学させたくない

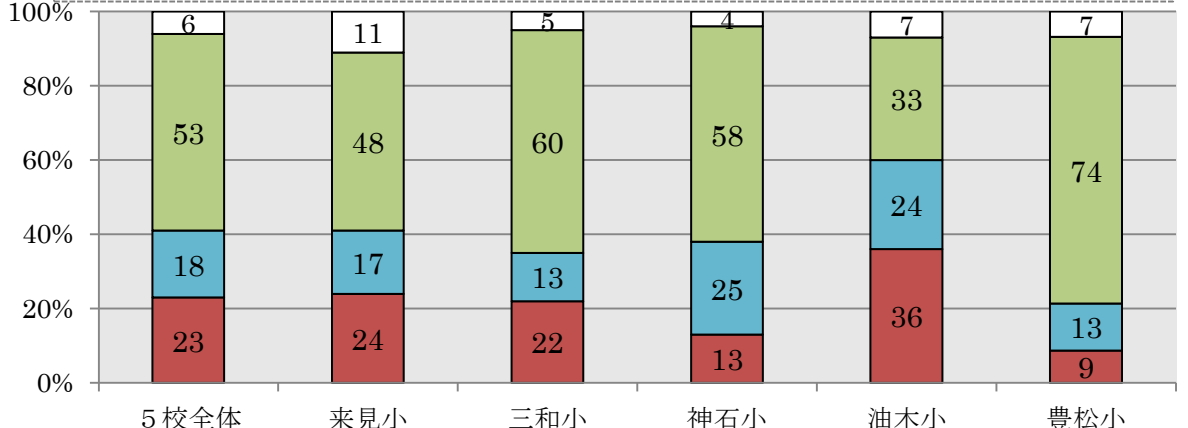
■ ① ■ ② ■ ③ □ ④



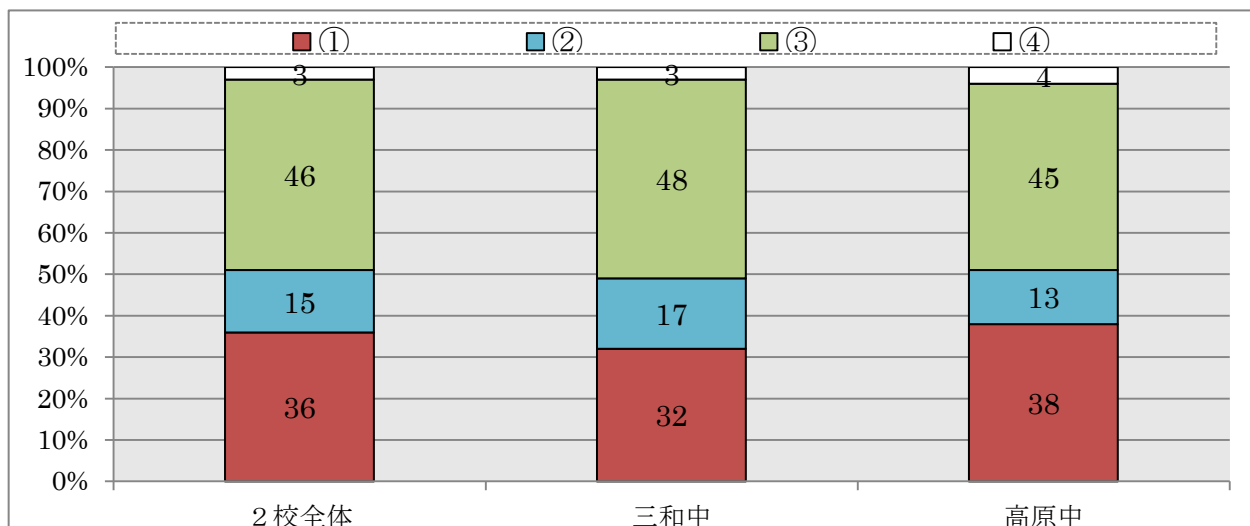
<各小学校別では>

① 入学させたい ② どちらかと言えば入学させたい ③ わからない ④ 入学させたくない

■ ① ■ ② ■ ③ □ ④



＜各中学校別では＞



考察 ・小中学校別では、「入学させたい」肯定的評価が10%中学校が上回っている。一方、小学校はまだ高校への進路選択を具体的に考えにくいのか、「わからない」との回答率が7%小学校の方が高い。

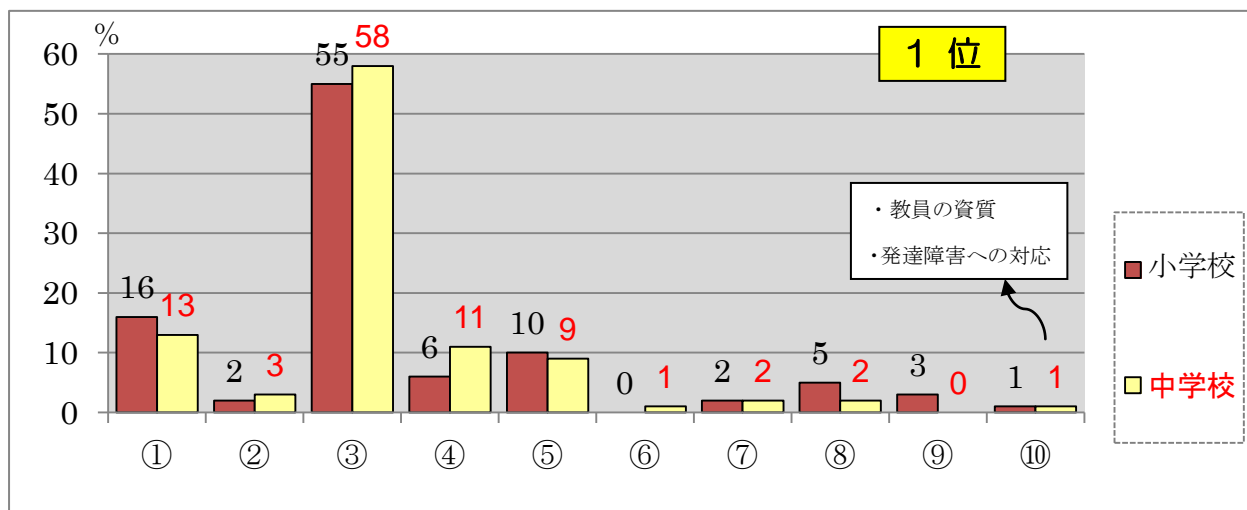
・昨年度比では、「どちらかと言えば入学させたい」も含めた「入学させたい」肯定的回答が、小中学校共に若干増えている。そして、「入学させたくない」も多少ではあるが小中学校共に減少している。

・各学校別の小学校では、油木小の「入学させたい」肯定的回答が60%と一番高い。一方、「入学させたくない」回答率では、来見小(11%)が2桁の数字であった。中学校は2校ともほぼ同じような回答率である。そして、両校とも「入学させたい」回答率が約半数である。しかし、小中学校共に一番多いのは「わからない」の回答だけに、今後の取組みによって「入学させたい」と思われるような教育実践や魅力づくりへ向けて、学校現場と教育行政との両面から努力していく必要がある。

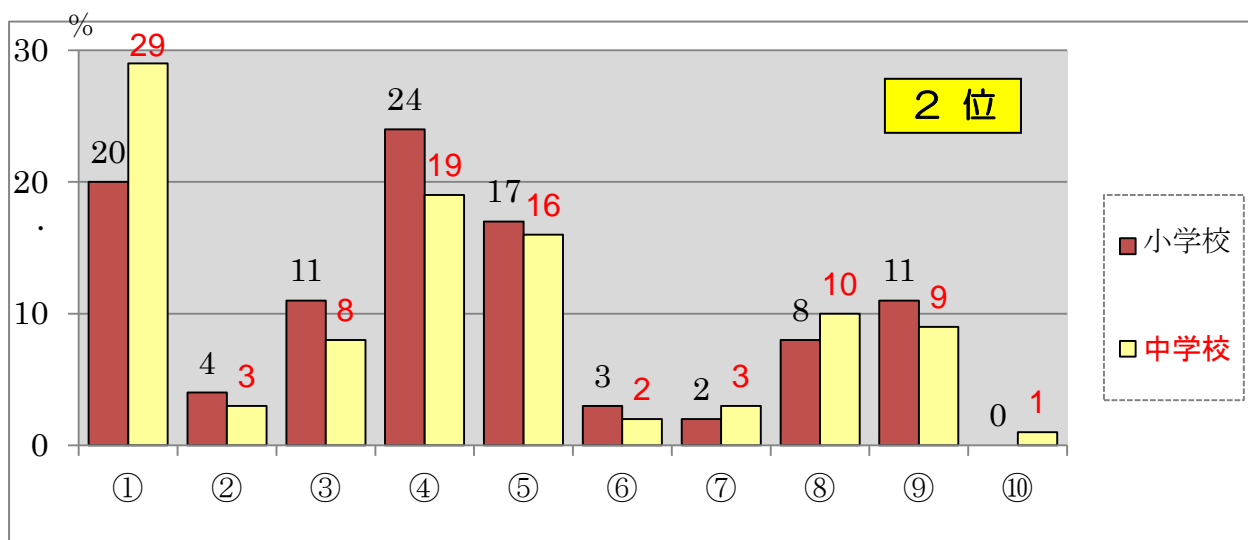
⑥ 子どもさんの高校進路選択をする上で、保護者として重要視したいことはどんなことですか。

下の①～⑩の中から重要視したい順番に2つ(1位・2位)選んでください。

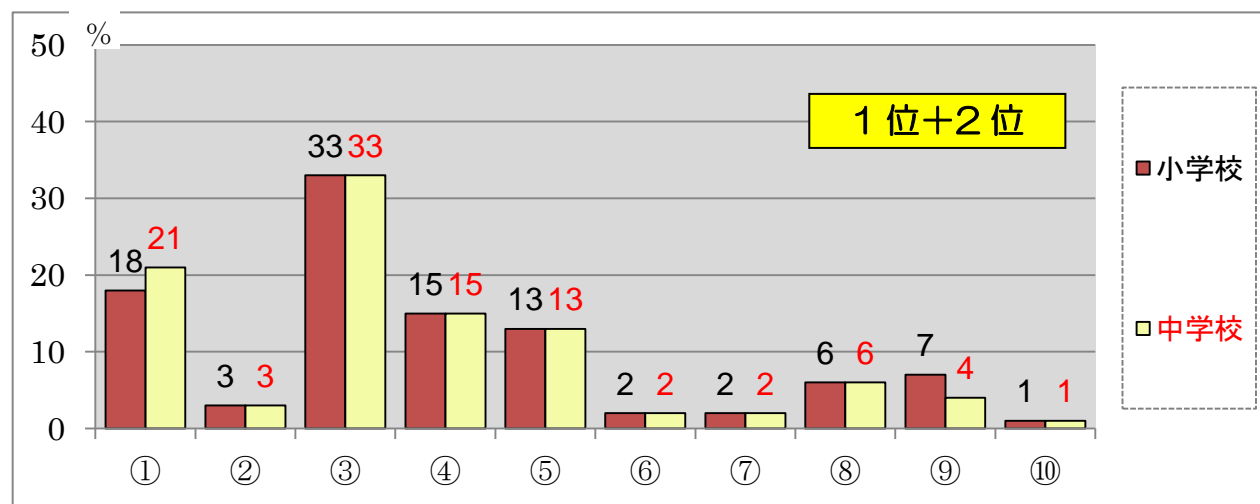
- ① 通学便 ② 伝統や校風 ③ 子ども本人の希望 ④ 学習環境面 ⑤ 教育内容面
 ⑥ 施設設備面 ⑦ クラブ活動面 ⑧ 進路実績 ⑨ 経費面 ⑩ その他



- ① 通学便 ② 伝統や校風 ③ 子ども本人の希望 ④ 学習環境面 ⑤ 教育内容面
 ⑥ 施設設備面 ⑦ クラブ活動面 ⑧ 進路実績 ⑨ 経費面 ⑩ その他



- ① 通学便 ② 伝統や校風 ③ 子ども本人の希望 ④ 学習環境面 ⑤ 教育内容面
 ⑥ 施設設備面 ⑦ クラブ活動面 ⑧ 進路実績 ⑨ 経費面 ⑩ その他



考察 全体的に言えることは、前年度及び前々年度と同じような結果が出ていることと、小中学校別においてもほとんど同じような結果であった。

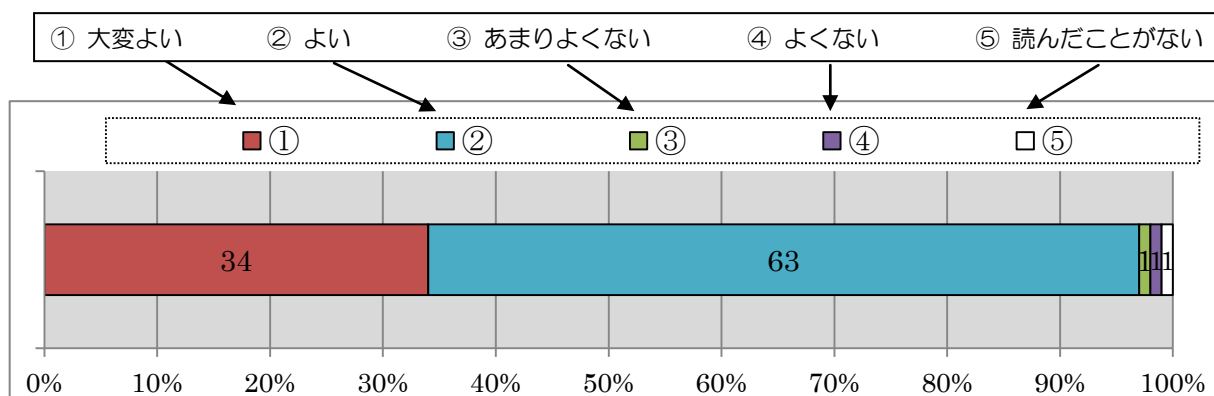
即ち、高校進路選択をする上で、保護者として重要視したいことで多いものとしては、③「子ども本人の希望」が小中学校共に際立って多く、続いて①「通学便」④「学習環境面」⑤「教育内容面」と続いている。

このことから、保護者の半数以上は「子ども本人の希望」を最優先される傾向にあり、児童・生徒への油木高校の理解や関心を深めていく取組みが重要である。

また、「通学便」もかなり重要度が高いことから、できる支援策を考え、魅力アップにつなげていく必要がある。

V. 連携型中高一貫教育に係るアンケート調査（地域編）の結果と考察

1 広報紙「連携型中高一貫教育ジャーナル『高原の風』」を年3回町内全戸に配布していますが、内容的にはどうですか。



考察 概ね（97%）「よい」との肯定的回答である。今後も一層中身を充実させながら情報提供していく必要がある。

2 下欄①～②の連携型中高一貫教育に関連する行事で、本年度参加されたものがあれば、該当番号に○印で答えてください。（複数回答可）

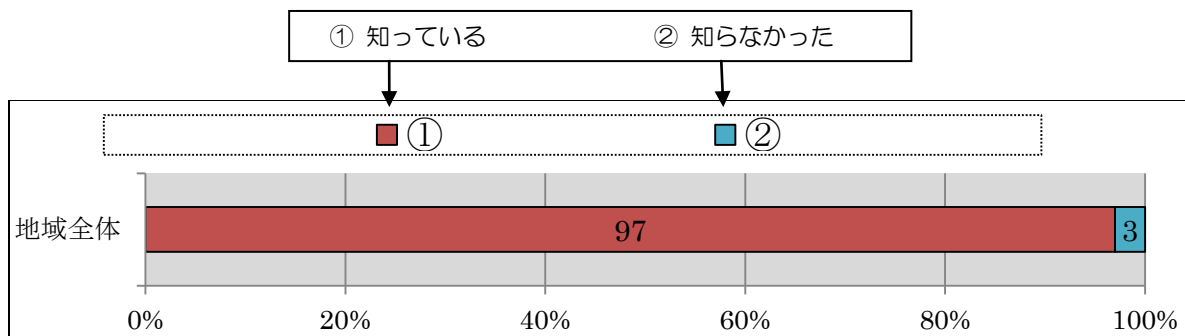
- ① 連携型中高一貫教育支援会議総会＆講演会（6月24日）
- ② 油木高校に係る行事
- | | |
|------------------------------|---------------------------|
| (1) 学園祭（6月14・15日） | (2) 体育祭（9月27日） |
| (3) 農業系の発表会（農業クラブ意見発表会など） | (4) 部活動等の大会（地区、県、全国大会など） |
| (5) 総合的な学習成果発表会（「明日ある我ら」発表会） | (6) 学校へ行こう週間（学校公開日：11月4日） |
| (7) PTA教育講演会（11月21日） | (8) その他（ ） |

≪ 回答頂いた方は 71名/92名(77%)でした。その中で参加された人数内訳は次の通りです。 ≫

行事名	① 支援会議 総会	② 油木高校に係る行事							
		(1) 学園祭	(2) 体育祭	(3) 農系発表	(4) 部活動	(5) 総合発表	(6) 学校週間	(7) P講演会	(8) その他
参加人数	本年 40人	23人	17人	12人	7人	10人	7人	13人	5人
	昨年 48人	21人		9人	11人	3人			2人

考察 本年度は中高一貫教育に係る直接的な講演会は、予算上実施することが出来なかった。油木高校に係る行事では、新しく体育祭などが実施され、広く地域の方々に呼びかける努力をされながら実施された。

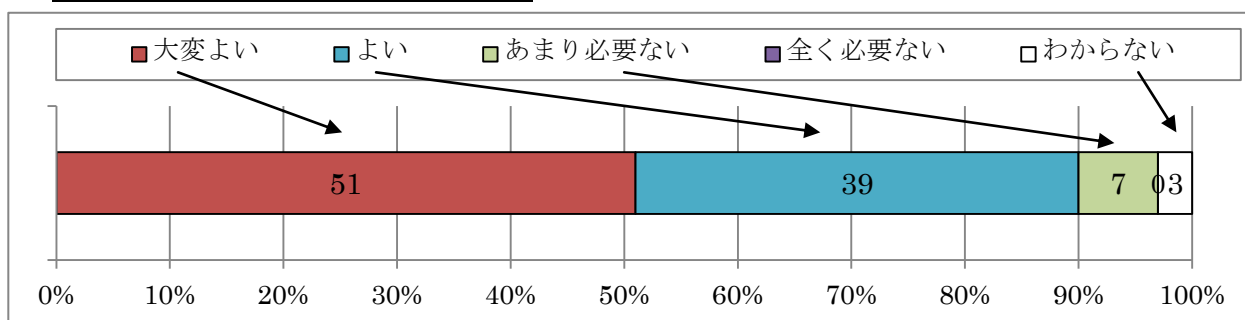
③ 平成 26 年 4 月から油木高校と町内中学校とが連携型中高一貫校として正式にスタートしたことをご存知ですか。



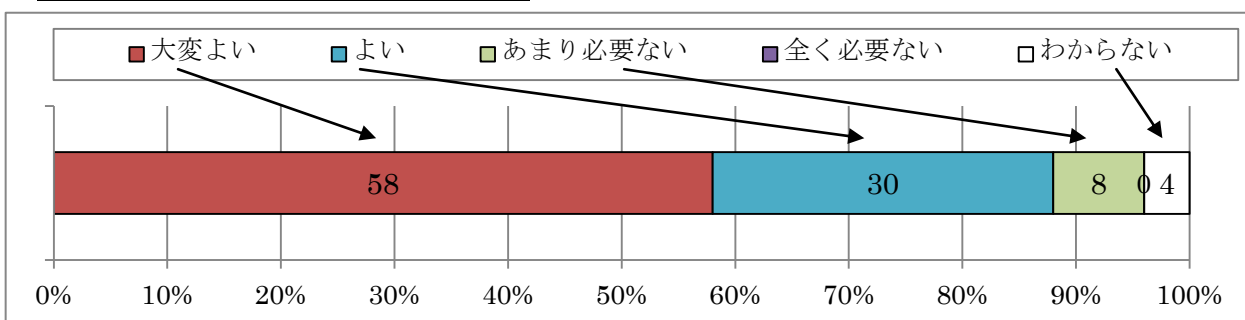
考察 地域の多くの方々（97%）は、平成 26 年度からの本格実施を知っておられる。それだけに、中高一貫教育への関心が高いものと思われる。

④ 本町が油木高校の魅力策として「油木高校内への学習塾の開設」や「海外への短期（語学・農業）研修制度の創設」などを検討しているところですが、そのことについてどう思いますか。

(1) 油木高校内への学習塾（数学・英語）の開設



(2) 海外への短期（語学・農業）研修制度の創設



考察 ・「学習塾の開設」は、「よい」との肯定的回答が 90%と非常に高く、中でも「大変よい」が半数（51%）を占めている。地域の期待が大きいだけに、その期待に応えられる公設塾にしていくことが求められる。
 ・「海外への短期研修制度」も 88%が「よい」の肯定的回答である。この制度も油木高校の魅力づくりとなるべく中身の制度設計が重要である。